

2024年3月期 通期決算説明会資料

2024年5月8日



株式会社新日本科学

SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.

1. 2024年3月期 総括と今期の見通し	P. 3
2. 2024年3月期 決算について	P.12
3. 事業トピックス	
①CRO事業（非臨床）	P. 26
②CRO事業（臨床）	P. 38
③TR事業	P. 40
④メディポリス事業	P. 48
4. Q&A	

1. 2024年3月期 総括と今期の見通し



代表取締役会長兼社長
永田 良一

1. 2024年3月期 実績

- 売上高は2期連続で過去最高、減益は買収したSatsuma社の経費13.4億円が主因
- 非臨床事業の受注高は前年度比10%増、受注高および受注残高ともに過去最高
- 新日本科学PPD（関連会社）からの持分法利益は前年度比33.8%増の26.3億円と過去最高を更新
- 配当金は1株当たり年間50円、過去最高を継続予定

2. 2025年3月期 見通しと今後の方向性

- 今期減益予想はSatsuma社経鼻偏頭痛薬STS101の米国FDA承認に向けた経費32.9億円が主因
- 非臨床事業の受注高は2024年3月期比25%増の342億円を予想
- 持続的成長のための戦略的な大型先行投資を継続、2026年3月期から投資回収期入りを予想

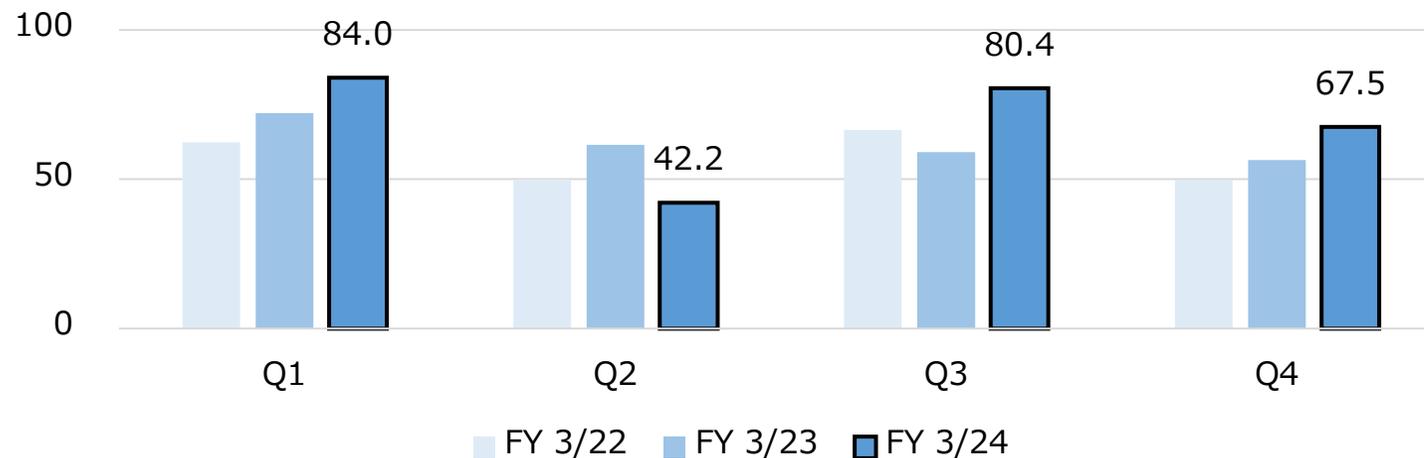
3. 企業価値向上に向けた人的資本経営への取組み

- 人的資本経営への取組み：経営の根幹は「人を育てること」を考えて、各事業を推進
- 「みんなが幸せに楽しく働ける会社」を目指し、新しい働き方制度等を導入

非臨床事業の受注高と受注残高の推移

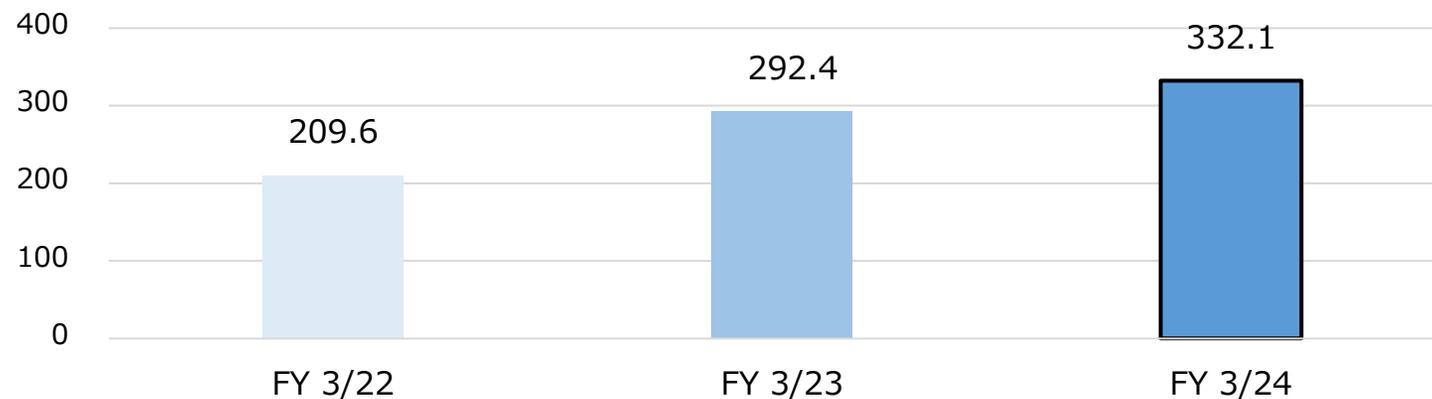
(単位：億円)

非臨床事業の受注高の四半期推移



(単位：億円)

期末の受注残高の推移



持続的成長のために第3の成長エンジンを稼働



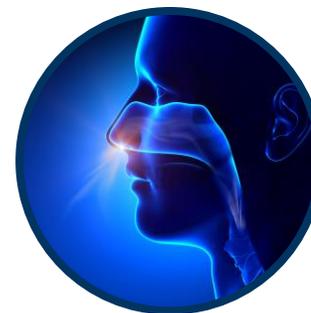
第1の成長エンジン
実験用NHPを用いた非臨床事業

1980



第2の成長エンジン
臨床事業（新日本科学PPD）

2000



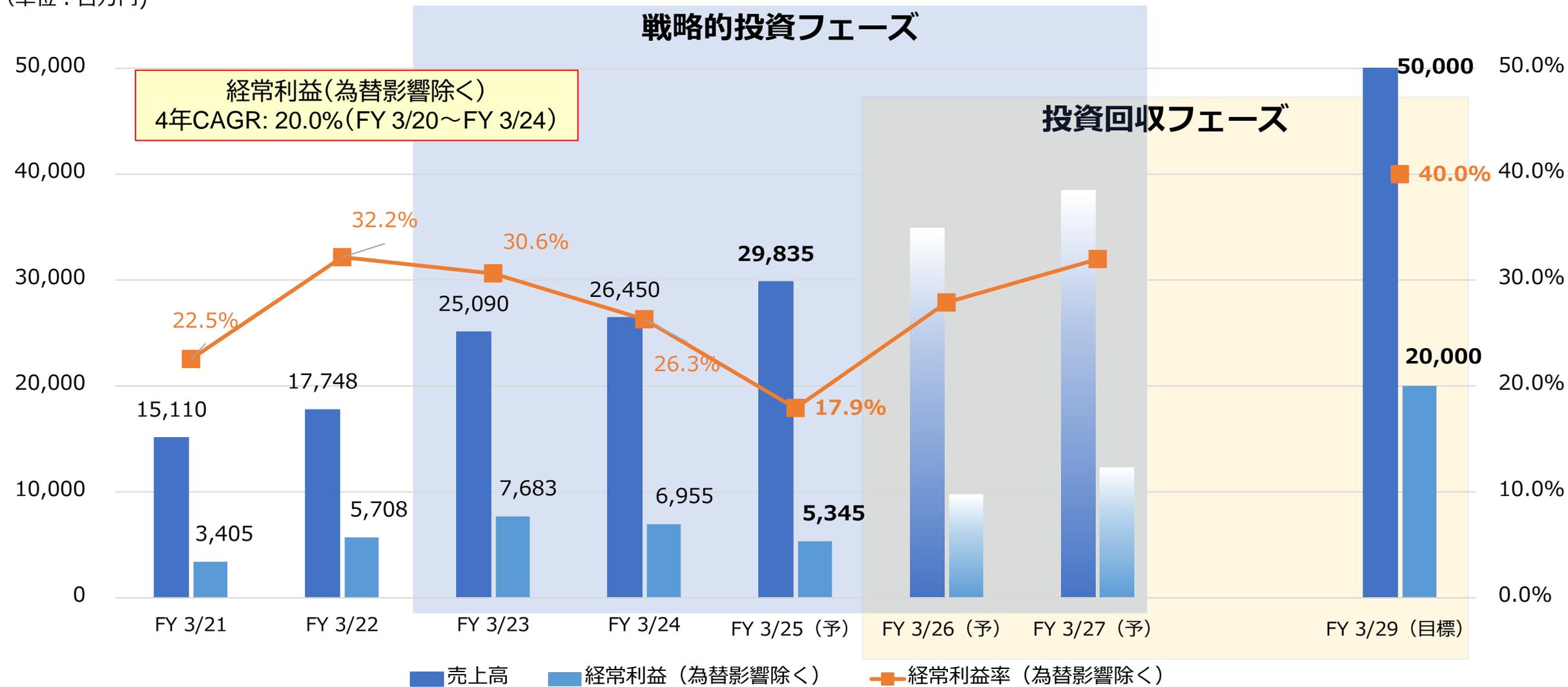
第3の成長エンジン
経鼻投与プラットフォーム技術

2020

2040

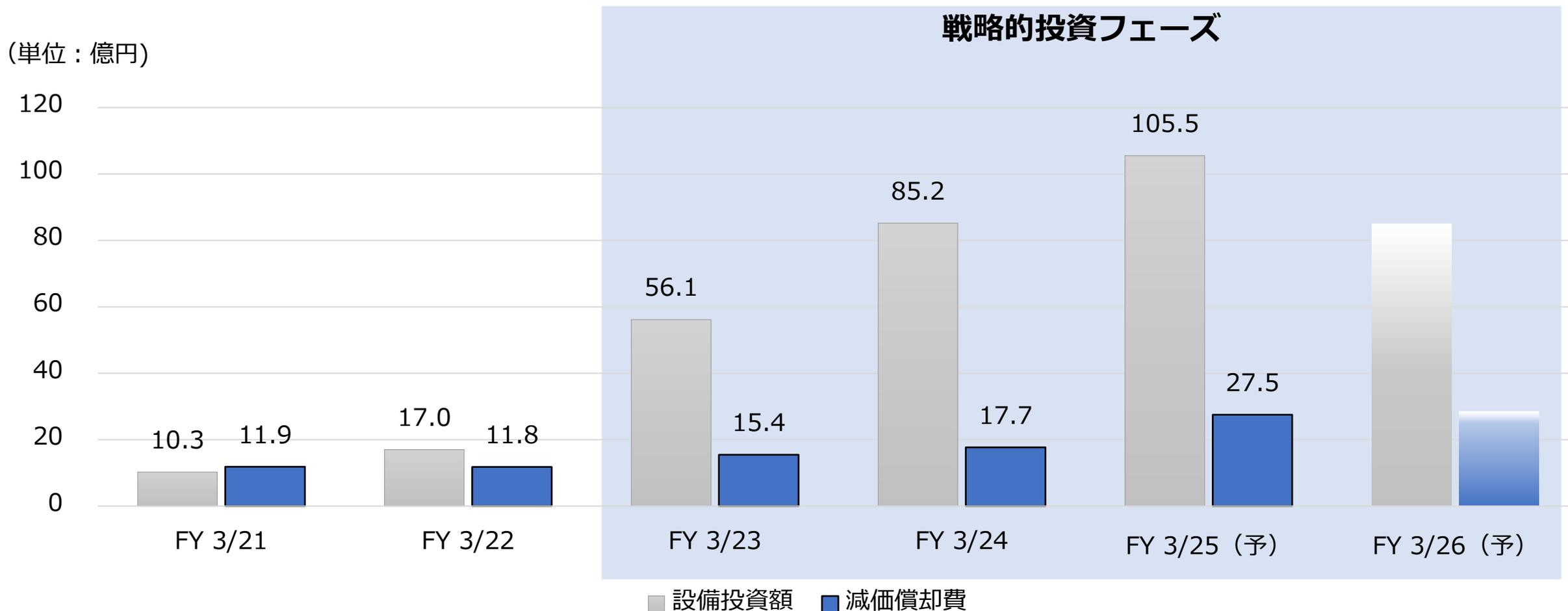
戦略的投資の継続と回収期入りイメージ

(単位：百万円)



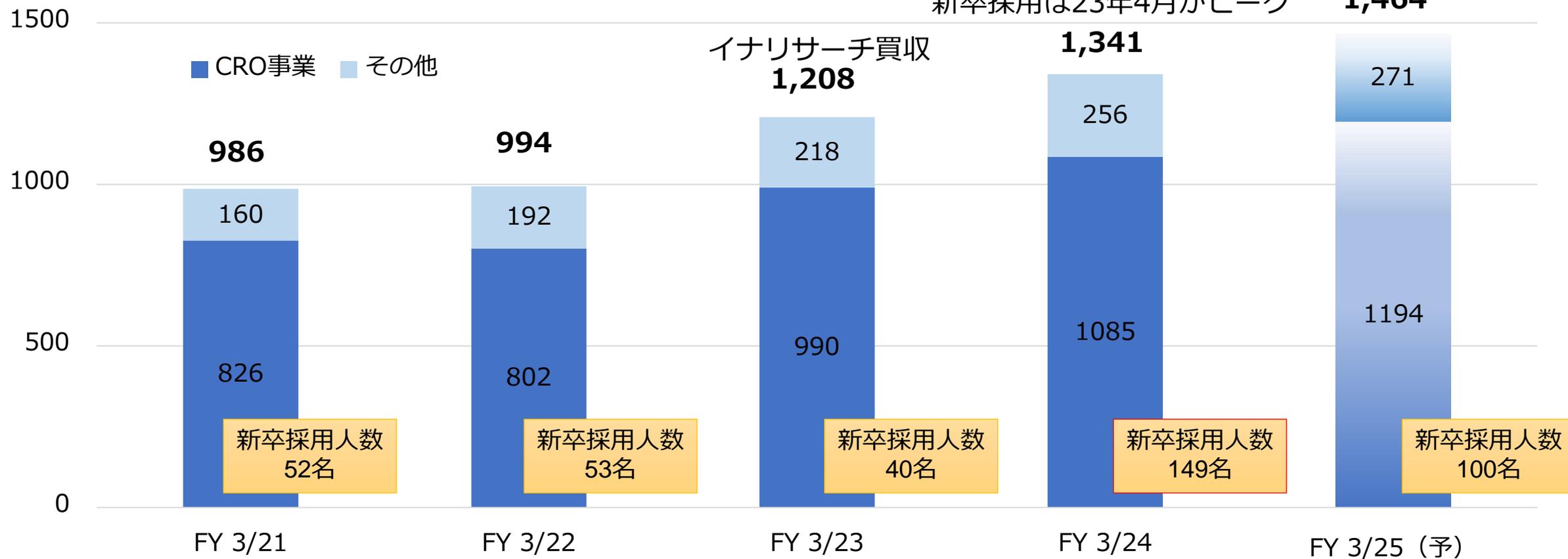
設備投資は2025年3期期が当面のピーク

2025年3月期が先行大型投資（施設増強やNHP国内繁殖体制確立）の当面のピークと見込む



社員数の推移

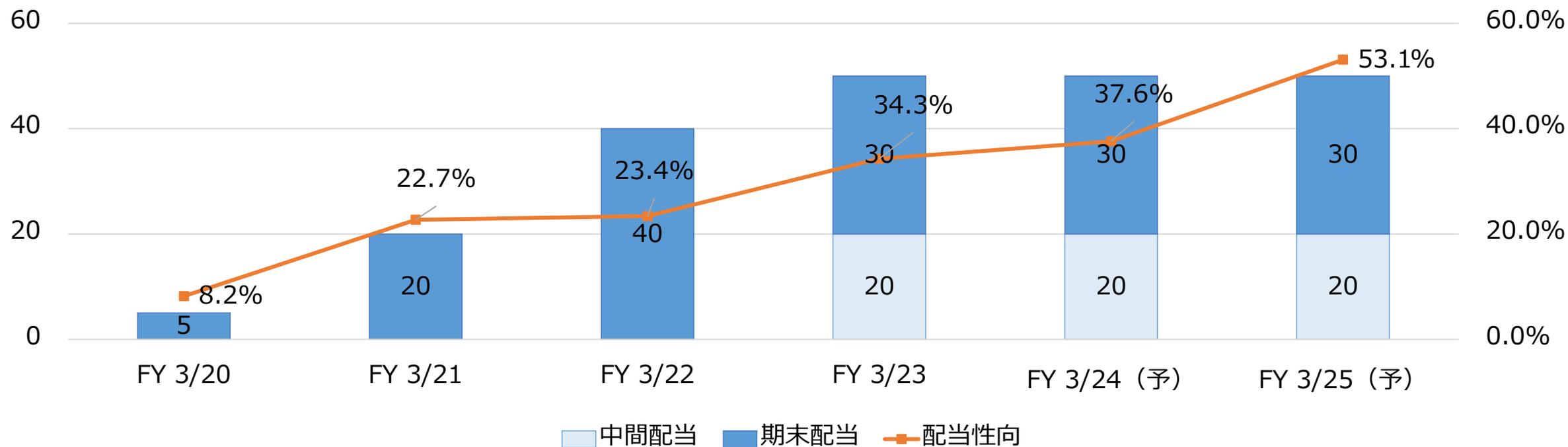
(単位：人)



(※ パート、派遣社員は含みません)

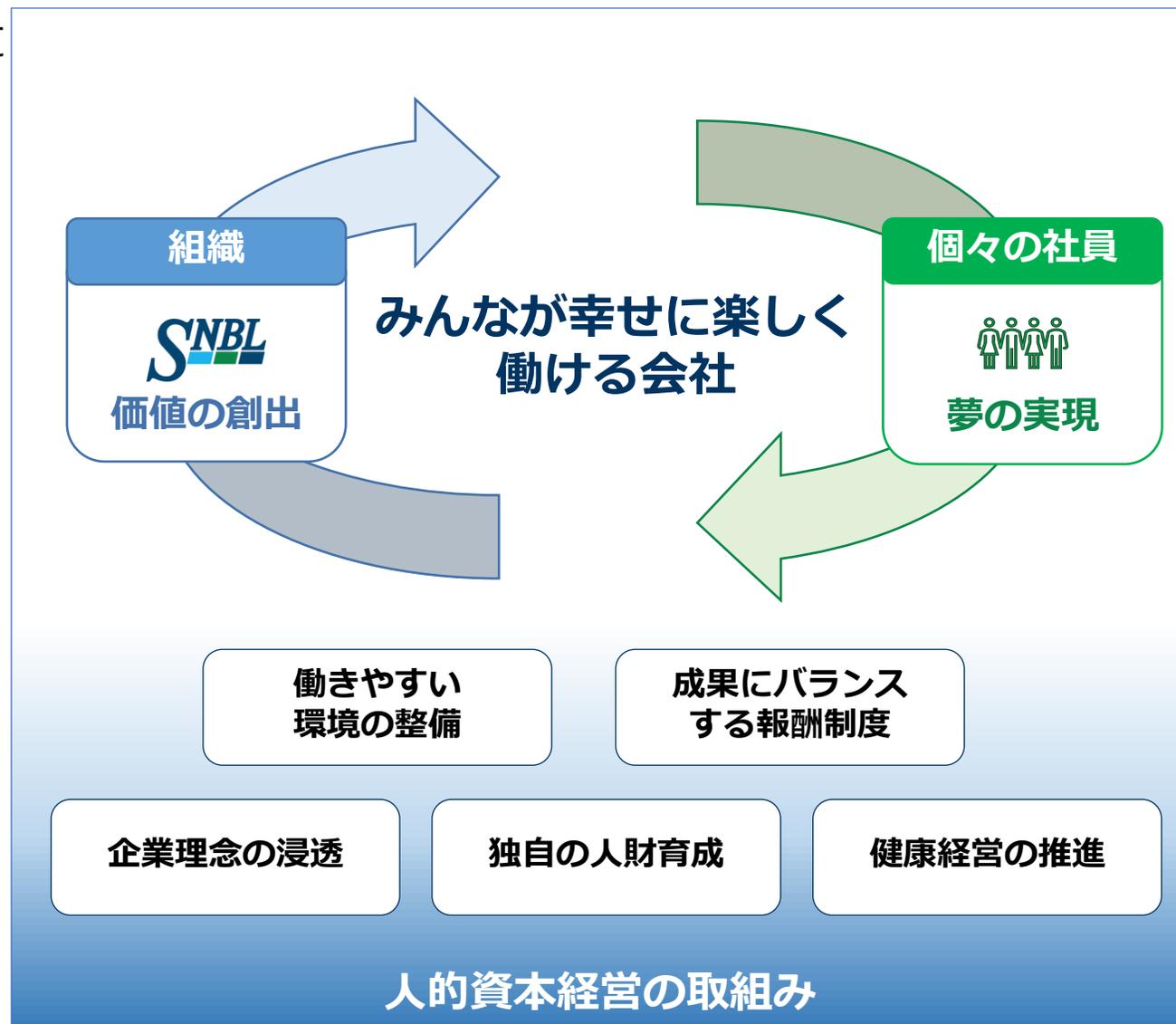
配当金と配当性向の推移

(単位：円)



	FY 3/20	FY 3/21	FY 3/22	FY 3/23	FY 3/24 (予)	FY 3/25 (予)
1株当たり配当額	5円/株	20円/株	40円/株	50円/株	50円/株	50円/株
配当性向	8.2%	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	53.1%

- 女性活躍推進企業として「プラチナえるぼし」に選定（上場企業では7社目）
- 子育て支援制度の新設
- 新しい働き方制度（Basic Income Staff）の導入
- 健康経営優良法人（ホワイト500）に8年連続選定
- 鹿児島本社に新社屋研究棟竣工予定（今年5月）



2. 2024年3月期 決算について



常務執行役員
IR広報統括部長
サステナビリティ担当
岩田 俊幸

当社の事業領域：医薬品の研究開発をトータルに支援



【会社概要】

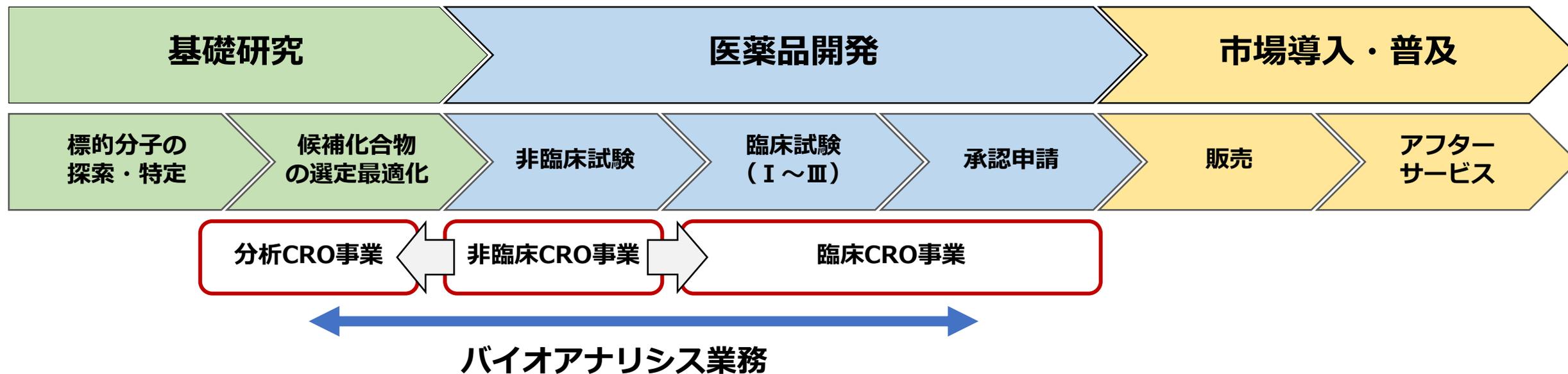
株式会社 新日本科学（東証プライム上場：証券コード：2395）

創業：1957年9月（設立 1973年5月） 鹿児島県鹿児島市

事業内容：医薬品開発支援を行うCRO事業 ※CRO(Contract Research Organization：医薬品開発業務受託機関)

従業員数：1,341名、女性従業員比率：51.6%（2024年3月末時点）

【医薬品開発の流れと新日本科学のCRO事業領域の拡大】



2024年3月期 決算ハイライト



- 2月2日に発表した修正予想を上回って着地。売上高は2期連続で過去最高
- 営業利益の減益（10.8億円減）は、買収したSatsuma社の偏頭痛治療薬のFDA承認に向けた経費13.4億円が主因

(単位：億円)

	2023年 3月期	2024年3月期					
		前回予想 (2024/2/2開示)	実績	前回予想比		前期比	
売上高	250.9	261.9	264.5	+2.6	1.0%	+13.6	5.4%
営業利益	52.4	34.7	41.6	+6.9	20.0%	-10.8	-20.6%
経常利益	91.9	63.9	70.1	+6.2	9.8%	-21.8	-23.7%
経常利益 (為替差損益影響を除く)	76.8	61.1	69.5	+8.4	13.8%	-7.3	-9.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	60.6	39.7	55.3	+15.6	39.2%	-5.3	-8.7%

2024年3月期 収益構造

【2024年3月期の収益構造】

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	増加額
売上高	25,090	26,450	1,360
売上総利益	13,046	14,282	1,236
売上総利益率	52.0%	54.0%	
販売管理費	7,801	10,120	2,319
研究開発費	683	1,741	1,058
飼育管理費	871	1,333	462
販売管理費比率	31.1%	38.3%	
営業利益	5,245	4,162	-1,083
営業利益率	20.9%	15.7%	
営業外収益	4,241	3,254	
持分法利益	2,489	2,751	
内、新日本科学PPD	1,967	2,632	665
為替差益	1,511	60	-1,451
営業外費用	292	401	
経常利益	9,194	7,015	-2,179
経常利益率	36.6%	26.5%	

主力で収益源の非臨床事業の受注高および売上高が伸び、
売上総利益率は2.0%改善

- 営業利益の減益は、Satsuma社の経費13.4億円（うち研究開発費9.5億円）の計上、および戦略的に大型先行投資（人財の大幅増員、実験施設の拡大、実験用NHPの国内繁殖体制の確立等）を行ったことによるコストアップが要因。

- 人件費総額（売上原価中の労務費+販管費中の人件費の合計）は前年度比14.0億円（15.3%）増

経常利益の減益幅拡大は、為替差益の前年度比14.5億円減少が
主因。

新日本科学PPDからの持分法利益は同6.6億円の増加

非臨床事業の受注高と受注残高の推移



【新日本科学の非臨床事業の四半期別受注動向】

(単位：百万円)

	FY 3/22					FY 3/23					FY 3/24				
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期
受注高	6,242	4,965	6,652	4,979	22,839	7,219	6,153	5,905	5,642	24,920	8,398	4,217	8,044	6,752	27,411
国内受注高	4,593	3,854	4,232	3,638	16,318	3,887	3,754	3,726	4,971	16,339	6,208	3,471	5,051	5,628	20,358
海外受注高	1,649	1,111	2,420	1,341	6,521	3,332	2,399	2,179	671	8,581	2,189	745	2,993	1,124	7,051
欧米	1,311	827	1,759	802	4,699	2,844	484	1,489	420	5,237	1,661	827	1,830	755	5,073
アジア	338	283	662	539	1,822	488	1,915	690	251	3,344	527	-81	1,162	368	1,976
海外受注高比率	26.4%	22.4%	36.4%	26.9%	28.6%	46.2%	39.0%	36.9%	11.9%	34.4%	26.1%	17.7%	37.2%	16.6%	25.7%
キャンセル	-235	-196	-171	-435	-1,038	-549	-926	-1,414	-1,281	-4,169	-475	-1,559	-834	-1,110	-3,978
受注残高	17,216	17,671	19,960	20,966	20,966	25,756	33,672	32,585	29,248	29,248	33,329	32,210	33,863	33,212	33,212

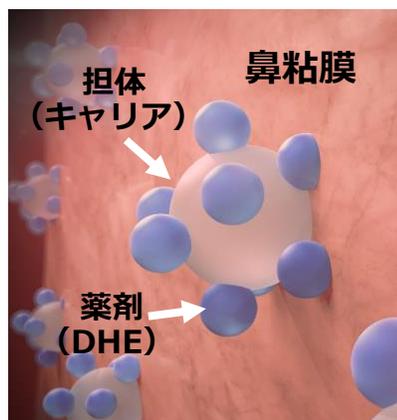
(注) 23/3期Q2からイナリサーチ含む。受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上

SNBL-TR事業の
オリジナル経鼻投与基盤技術

粉体製剤技術

+

投与デバイス
(医療機器)



独自担体 (キャリア) を活用した
粘膜付着性の粉末製剤

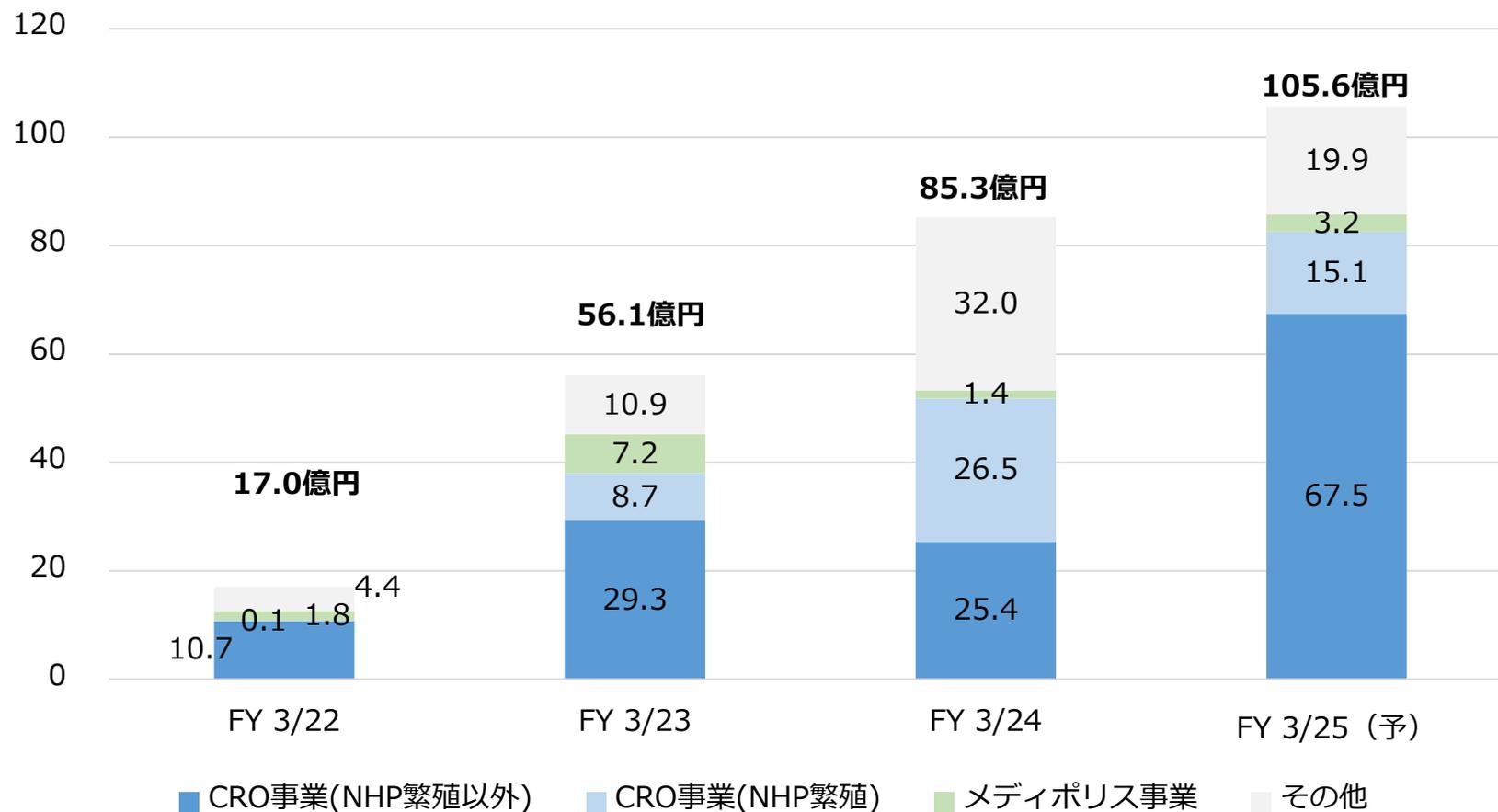
新薬としての経鼻投与製剤



簡便操作、軽量コンパクト等、
患者に寄り添った独自設計

2025年3月期が先行大型投資（施設増強やNHP国内繁殖体制確立）の当面のピークと見込む

(単位：億円)



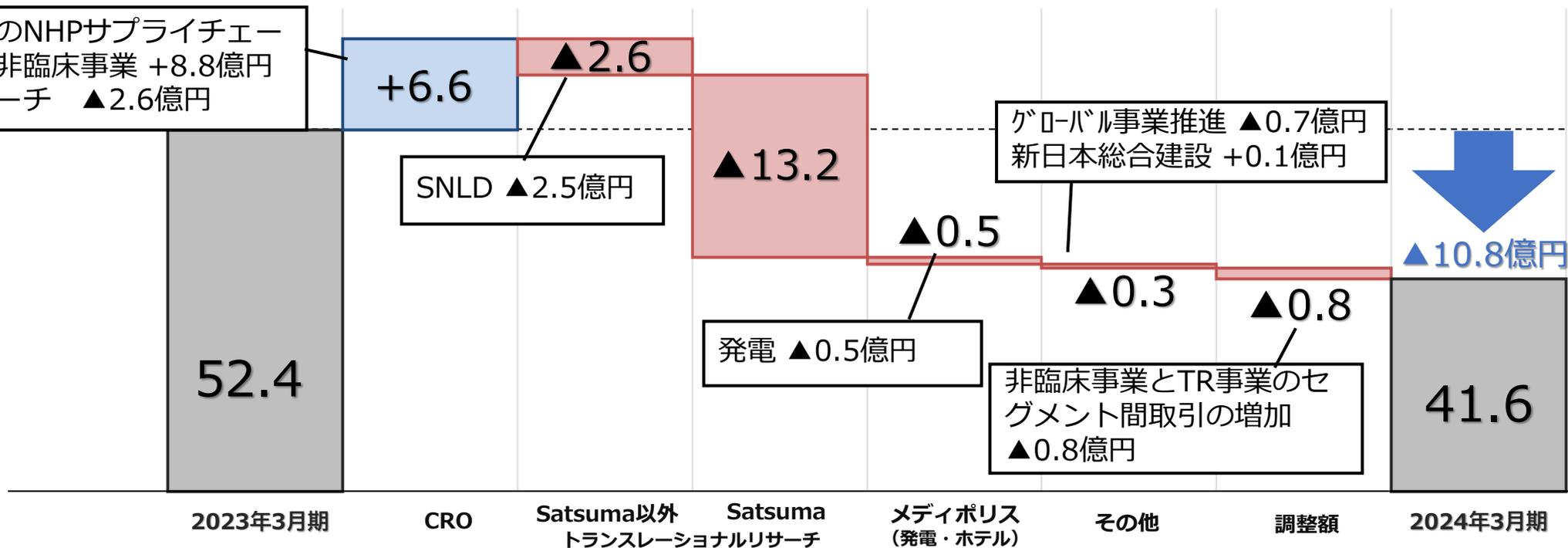
鹿児島本社 新社屋研究棟完成イメージ
2024年5月末に竣工予定

2024年3月期 連結営業利益 前期比較



(億円)	CRO事業	トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	調整額	営業利益 合計
		Satsuma以外	Satsuma				
2024年3月期実績	69.9	-11.3	-13.2	-2.5	0.8	-2.1	41.6
2023年3月期実績	63.3	-8.7	0.0	-2.0	1.1	-1.3	52.4
前期比増減額	+6.6	-2.6	-13.2	-0.5	-0.3	-0.8	-10.8

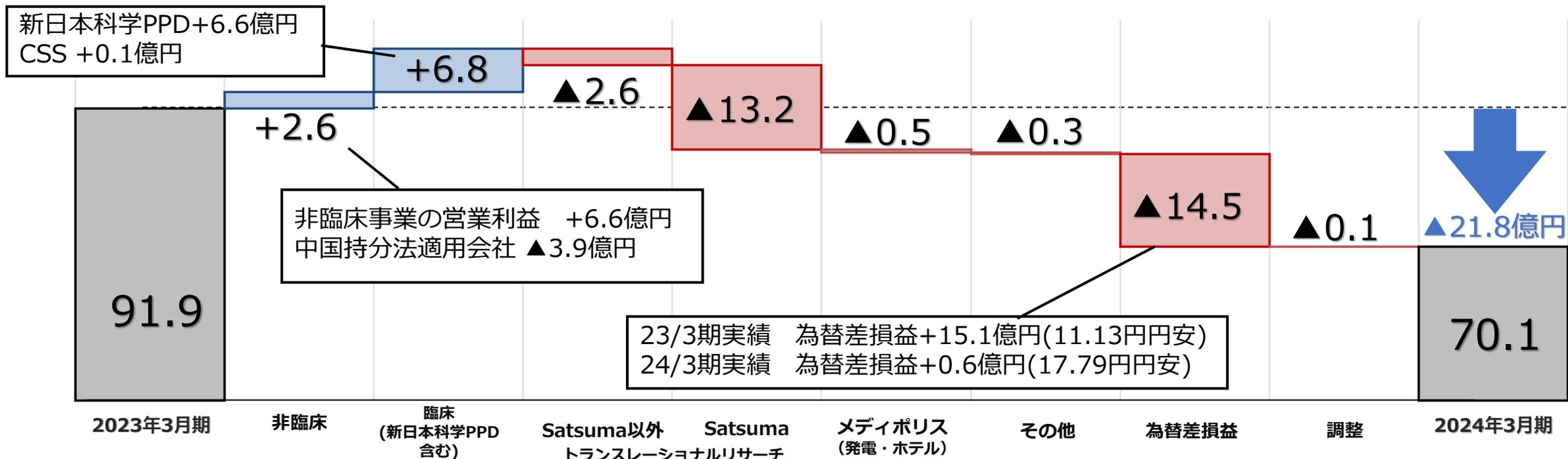
当社独自のNHPサプライチェーンによる非臨床事業 +8.8億円
イナリサーチ ▲2.6億円



2024年3月期 連結経常利益 前期比較



(億円)	CRO事業		トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	為替差損益	調整	経常利益 合計
	非臨床事業	臨床事業 (新日本科学PPD含む)	Satsuma以外	Satsuma					
2024年3月期実績	71.4	27.9	-11.3	-13.2	-2.5	0.8	0.6	-3.6	70.1
2023年3月期実績	68.8	21.1	-8.7	0.0	-2.0	1.1	15.1	-3.5	91.9
前期比増減額	+2.6	+6.8	-2.6	-13.2	-0.5	-0.3	-14.5	-0.1	-21.8



2025年3月期 通期業績予想



- 売上高は24/3期比12.8%増、3期連続過去最高を予想
- 営業利益の減益（18.1億円減）予想は、Satsuma社の偏頭痛治療薬のFDA承認に向けた経費32.9億円（24/3期比19.5億円増）が主因

(単位：億円)

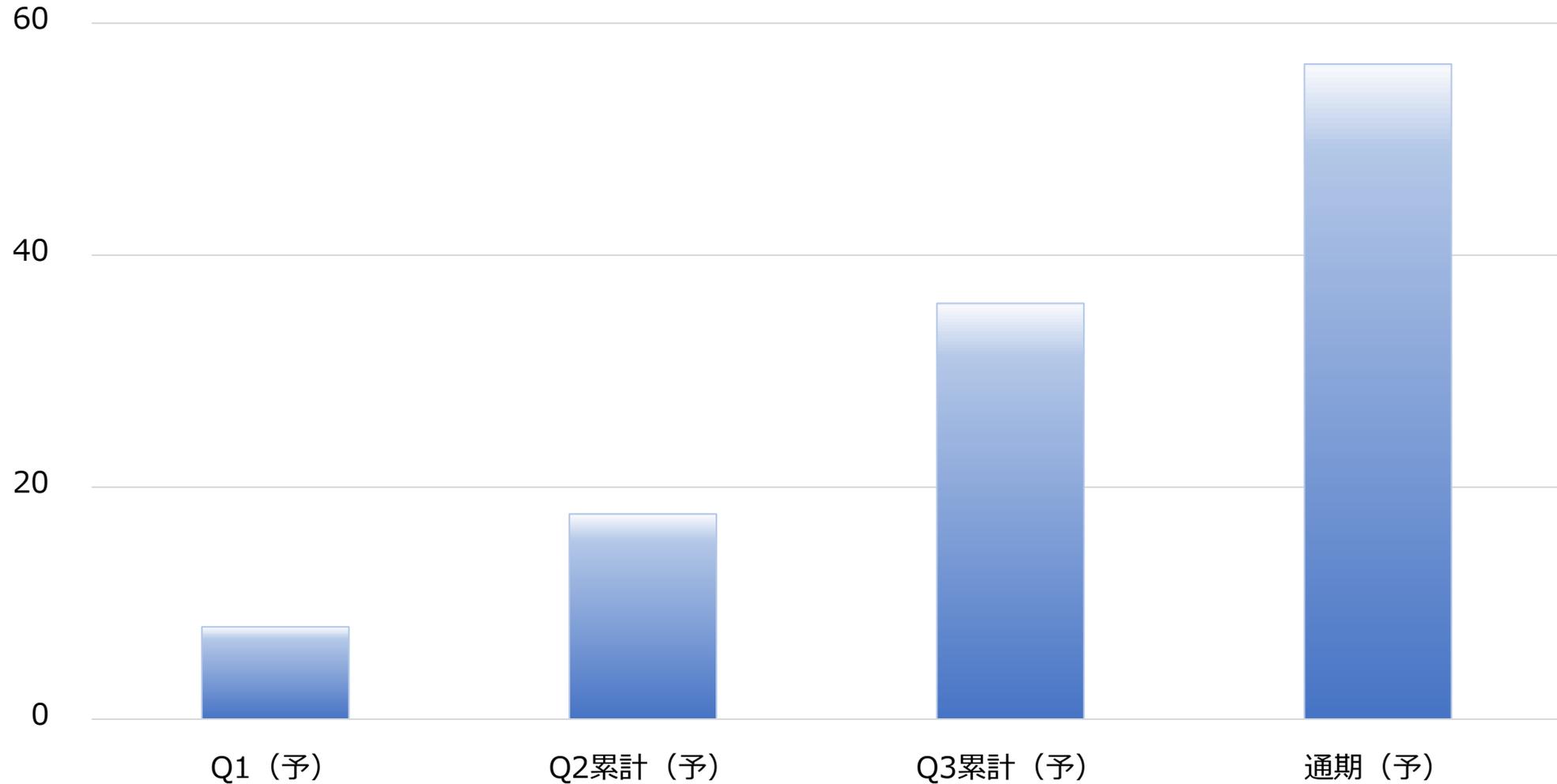
	2024年 3月期	2025年3月期		
		通期 業績予想	前期比	
売上高	264.5	298.3	+33.8	12.8%
営業利益	41.6	23.5	-18.1	-43.5%
経常利益	70.1	53.4	-16.7	-23.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55.3	39.2	-16.1	-29.1%

定常利益 Satsuma、為替、特別損益による影響を除く			
2024年 3月期	2025年3月期		
	通期 業績予想	前期比	
264.5	298.3	+33.8	12.8%
55.0	56.4	+1.4	2.6%
83.0	86.4	+3.4	4.1%
68.7	72.3	+3.6	5.2%

2025年3月期予想 Satsuma社を除く営業利益の四半期推移



(単位：億円)



※2025年3月期のSatsuma社の影響を除いた営業利益の四半期推移の予想

2025年3月期予想 収益構造

【2025年3月期の収益構造予想】 (単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期 (予)	増加額
売上高	26,450	29,835	3,385
売上総利益	14,282	16,328	2,046
売上総利益率	54.0%	54.7%	
販売管理費	10,120	13,977	3,857
人件費	3,259	3,892	633
支払手数料	1,452	2,027	575
研究開発費	1,741	3,121	1,380
飼育管理費	1,333	1,835	502
その他	2,335	3,102	767
販売管理費比率	38.3%	46.8%	
営業利益	4,162	2,350	-1,812
営業利益率	15.7%	7.9%	
持分法利益	2,751	2,981	
内、新日本科学PPD	2,632	2,772	140
為替差益	60	0	-60
経常利益	7,015	5,345	-1,670
経常利益率	26.5%	17.9%	

主力で収益源の非臨床事業の受注高および売上高が伸び、
売上総利益率は0.7%改善を見込む

- 営業利益の減益予想は、Satsuma社の前年度比19.5億円増となる経費32.9億円（うち研究開発費18.7億円）の計上が主因
- 人件費総額（売上原価中の労務費+販管費中の人件費の合計）は前年度比16.6億円（15.8%）増を見込む

事業セグメント別の推移

【セグメント別 売上高・営業損益】

(単位：百万円)

		FY 3/21	FY 3/22	FY 3/23	FY 3/24	伸び率	FY 3/25 (予)	伸び率
CRO事業	売上高	14,508	17,047	24,000	25,909	8.0%	29,247	12.9%
	営業利益	3,393	5,035	6,336	6,998	10.4%	7,906	13.0%
	営業利益率	23.4%	29.5%	26.4%	27.0%		27.0%	
	持分法利益	848	1,438	2,489	2,751	10.5%	2,981	8.4%
	(うち新日本科学PPD)	864	1,258	1,967	2,631	33.8%	2,772	5.3%
	事業利益	4,241	6,473	8,825	9,749	10.5%	10,887	11.7%
TR事業	売上高	12	12	16	13		10	
	営業利益 (うちSatsuma)	-708	-746	-879	-2,465		-4,800	
					-1,344		-3,297	
メディポリス事業	売上高	552	563	683	569		432	
	営業利益	-54	-17	-203	-254		-462	
その他事業	売上高	503	968	1,437	1,407		2,062	
	営業利益	-35	41	110	88		20	
調整額	売上高	-466	-844	-1,047	-1,448		-1,917	
	営業利益	-65	-116	-118	-205		-313	
合計	売上高	15,110	17,748	25,090	26,450	5.4%	29,835	12.8%
	営業利益	2,529	4,195	5,245	4,162	-20.6%	2,350	-43.5%
	営業利益率	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%		7.9%	

CRO事業は売上高、利益ともに過去最高を予想

Satsuma社の赤字拡大（19.5億円）が減益予想の主因

※事業利益は営業利益+持分利益

為替評価損益（営業外損益に計上）

2024年3月期実績：為替差益 60百万円（期初前提為替：133.54円⇒期末実績：151.33円）

2025年3月期予想：±0 1円/米ドル 円安の場合 △13百万円

2025年3月期 想定為替レート： 145円/米ドル

為替相場変動の影響（1円/米ドル 円安の場合）

- ・売上高： 52百万円
- ・営業利益： 13百万円

3. 事業トピックス

① CRO事業 (非臨床)



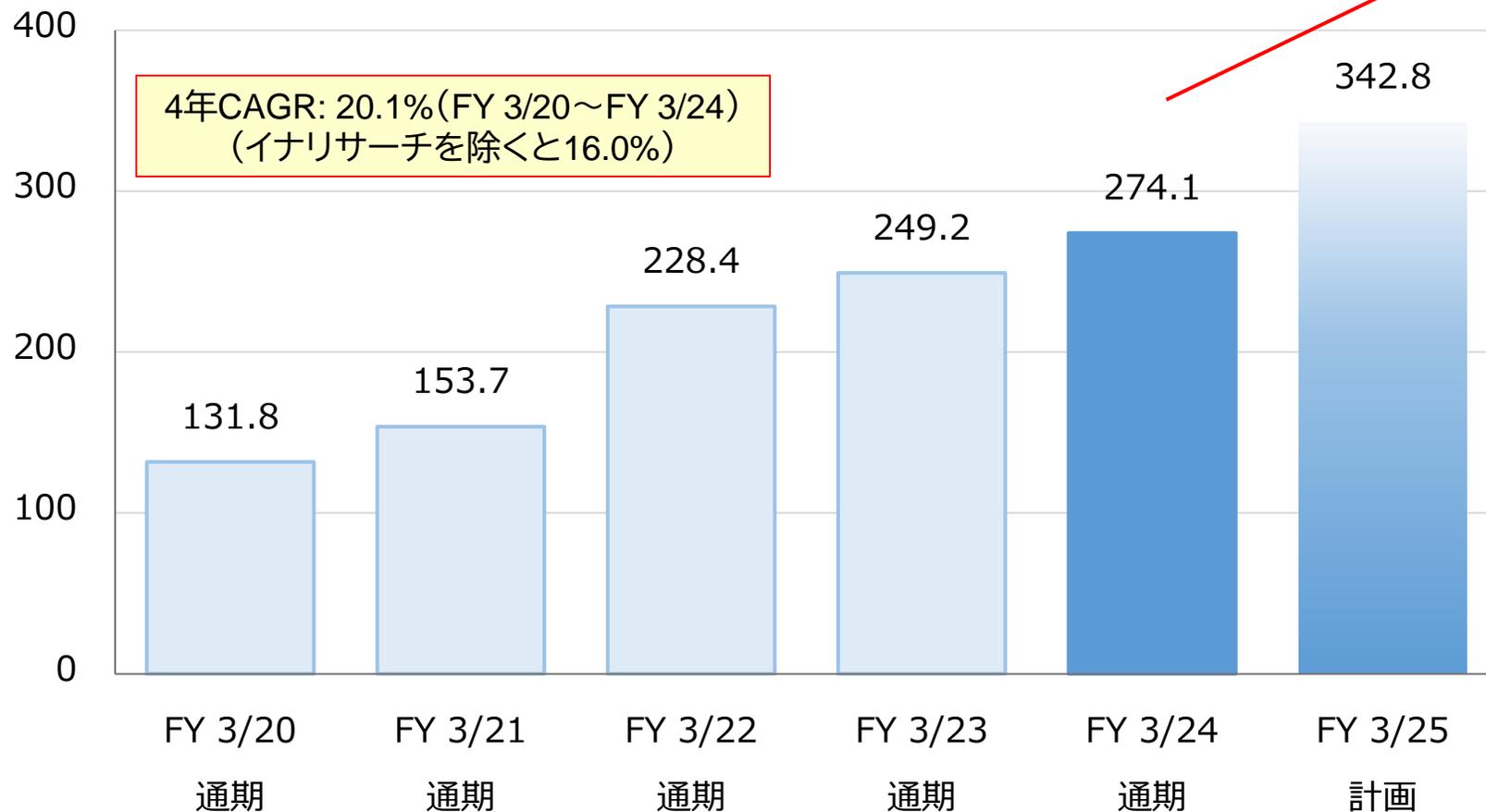
専務取締役
非臨床カンパニー Global BD担当
兼 President
角崎 英志

CRO事業：2024年3月期 非臨床 受注状況（円ベース）



(単位：億円)

受注高の推移



通期 前期比 +24.9億円

SNBL +17.6億円
 ・国内：+35.7億円
 ・海外：▲18.1億円

INA +7.3億円
 ・国内：+4.5億円
 ・海外：+2.8億円

換算レート（期中平均）145.31円/\$

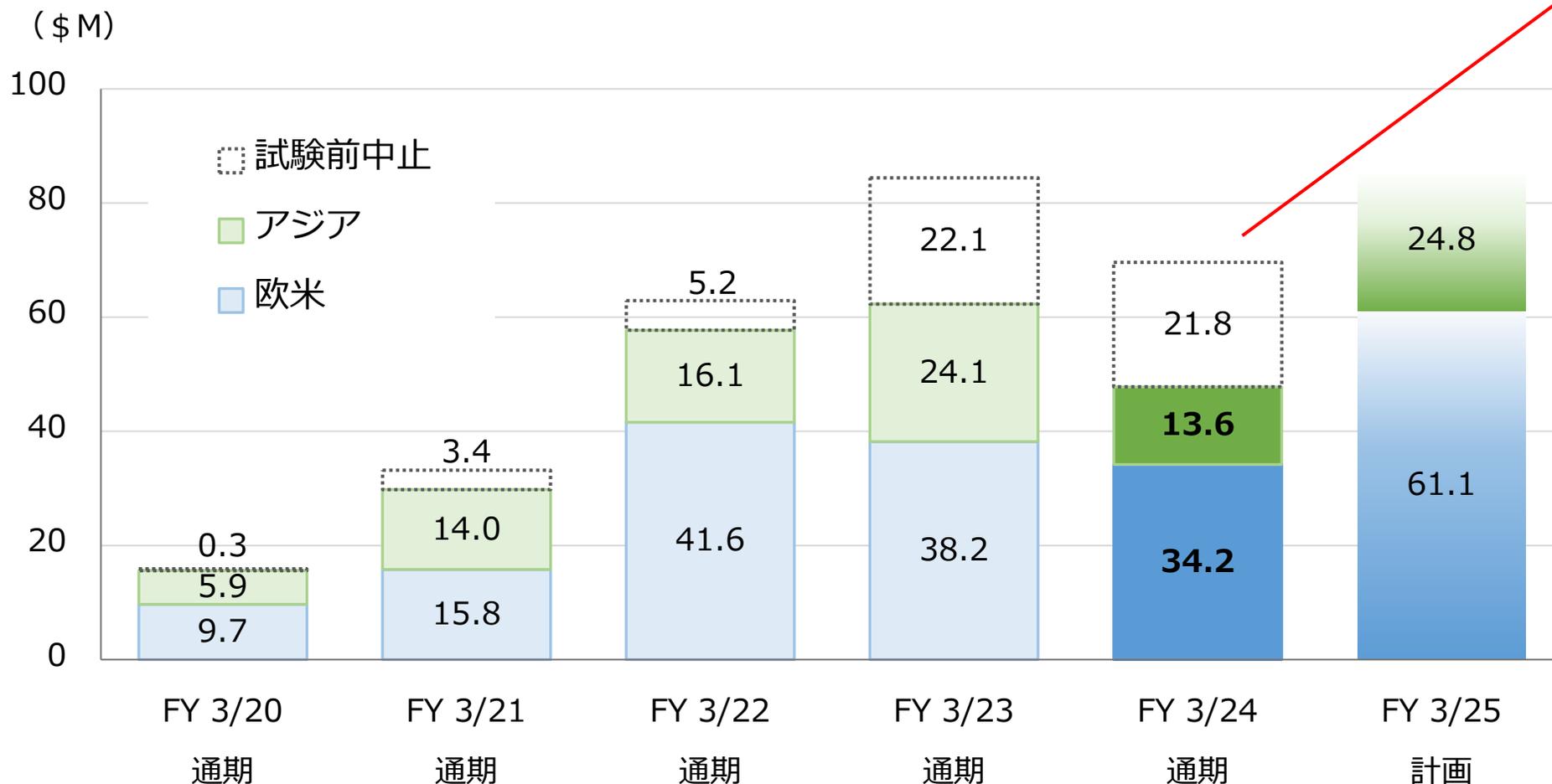
注) 23/3期 Q2からイナリサーチを含む
 ・海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

	FY 3/20	FY 3/21	FY 3/22	FY 3/23	FY 3/24	FY 3/25
受注残高	114.7億円	136.6億円	209.7億円	292.5億円	332.1億円	
海外受注高比率	12.9%	20.6%	28.6%	34.4%	25.7%	

通期 前期比 +39.6億円

SNBL：+43.6億円
 INA：▲4.0億円

CRO事業：2024年3月期 非臨床 海外からの受注状況（US\$ベース）



通期 前期比 ▲\$14.5M

SNBL ▲\$16.4M

・欧米 : ▲\$ 3.8M

・アジア : ▲\$12.6M

INA +\$2.0M

・欧米 : ▲\$0.2M

・アジア : +\$2.2M

注)

23/3期Q2からイナリサーチ含む

・受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上

通期 前期比 ▲\$11.1M

SNBL : ▲\$4.1M

INA : ▲\$7.0M

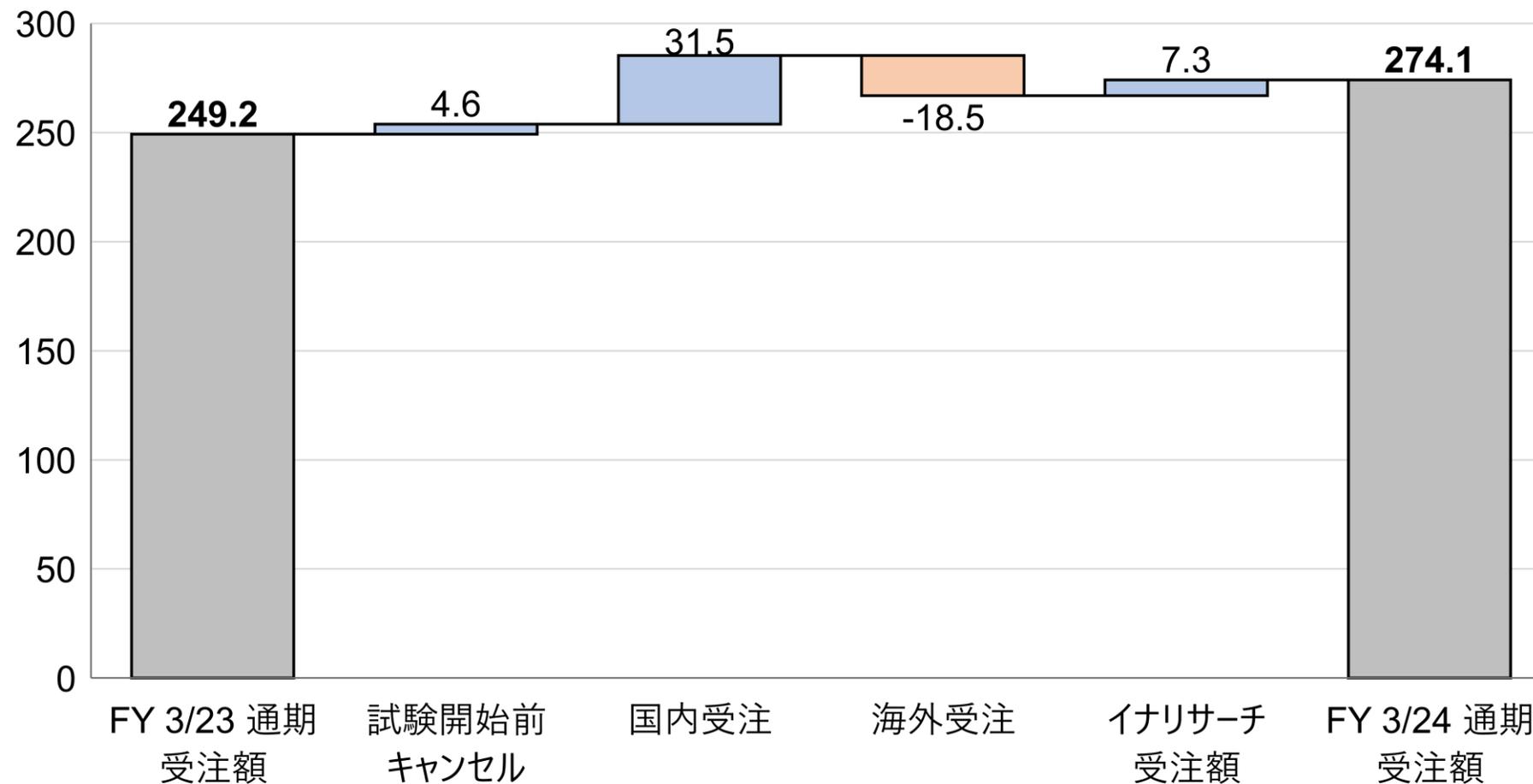
受注残高

\$18.9M	\$36.0M	\$65.6M	\$101.6M	\$90.5M
---------	---------	---------	----------	---------

CRO事業：2024年3月期 前期比受注要因分析



(単位：億円)



注)
23/3期Q2からイナリサーチ含む

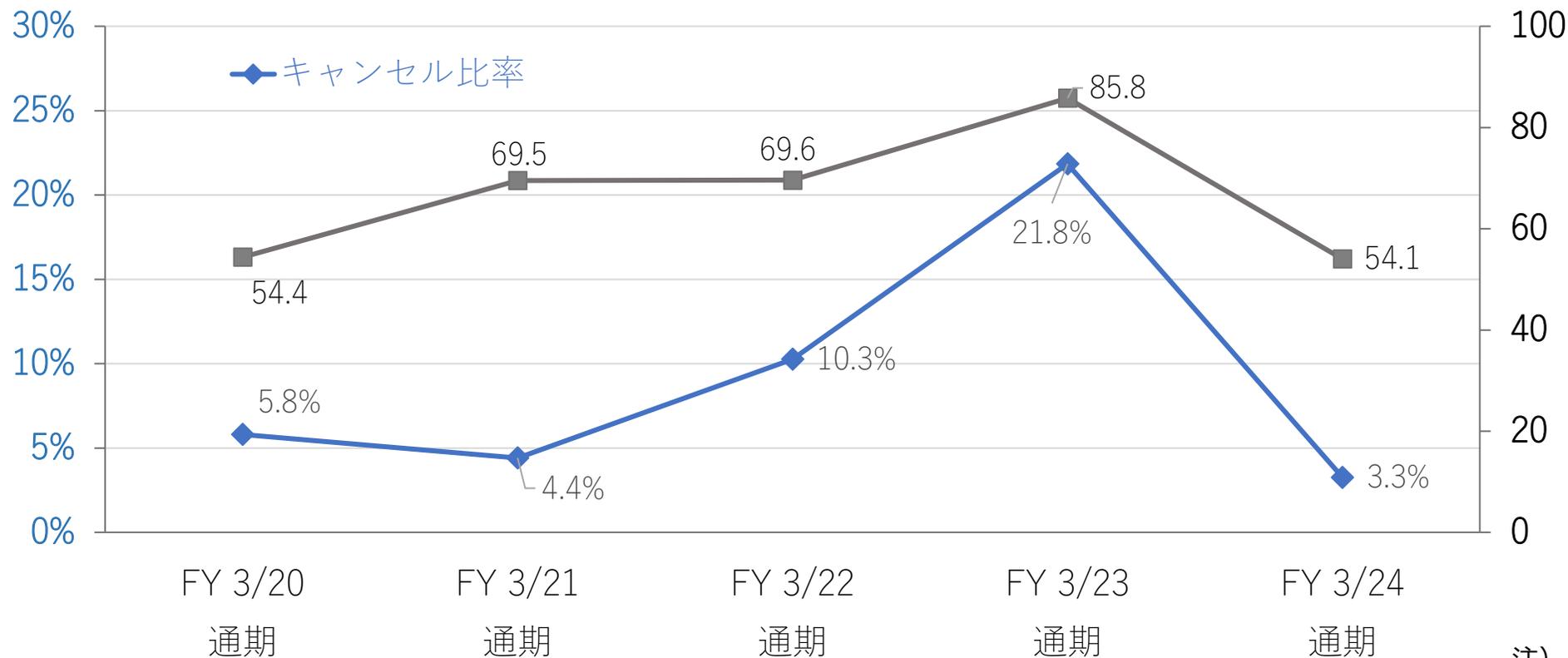
- 受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上

試験開始前キャンセルはFY 3/23 通期: 41.7億円 → FY 3/24 通期: 37.1億円

CRO事業：試験開始前キャンセル

キャンセル比率

契約日から試験開始日までの日数



(億円)

受注額

キャンセル額

受注額	131.8	153.7	228.4	249.2	274.1
キャンセル額	7.7	6.8	23.4	54.4	9.0

注)
23/3期Q2からイナリサーチ含む
・受注済案件の中止（キャンセル）
は契約年度に遡ってマイナス計上

顧客専用NHPコロニー設置

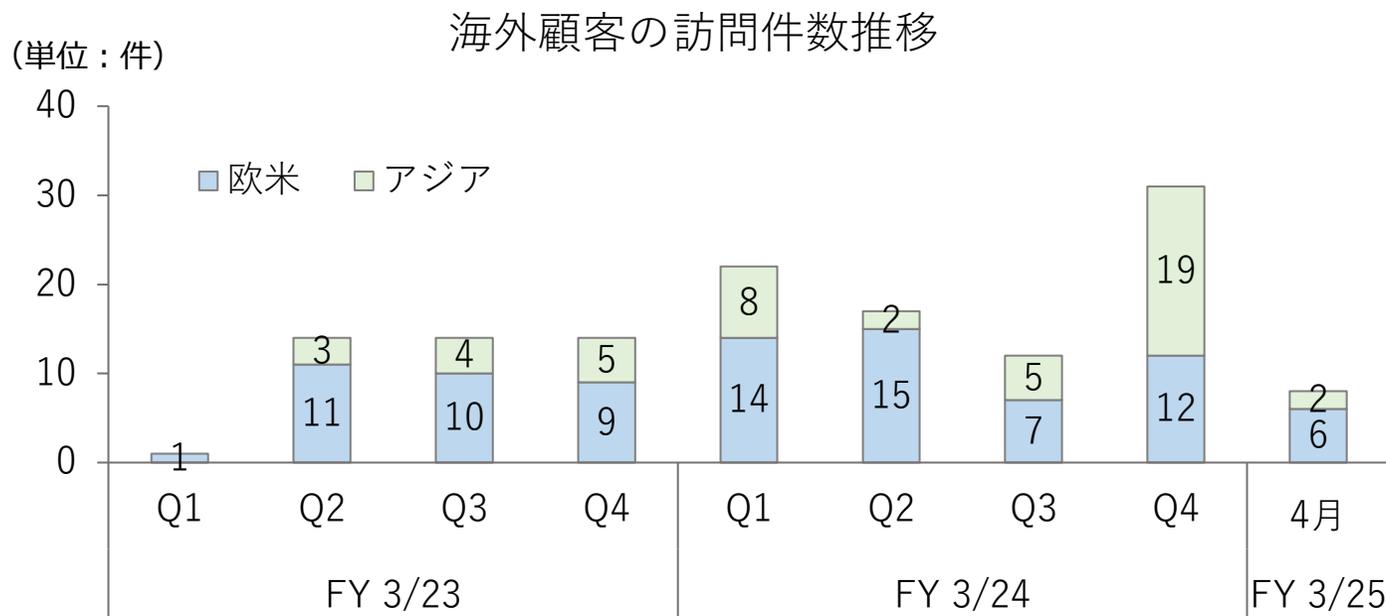
- ・安定的かつタイムリーに実験用NHPを試験に投入するために、主として海外顧客からの要望に応じて専用NHPコロニーを設置、飼育委託費の収益化と将来のNHP試験受託増加へ寄与している。

海外大手製薬企業とのプリファード契約締結に向けたデューデリジェンス

- ・複数の海外大手製薬企業とプリファード契約締結に向けた、当社事業のデューデリジェンスが本格化しており、ターゲット顧客のうち2社からは、初回試験を受注した。

海外顧客の訪問増加

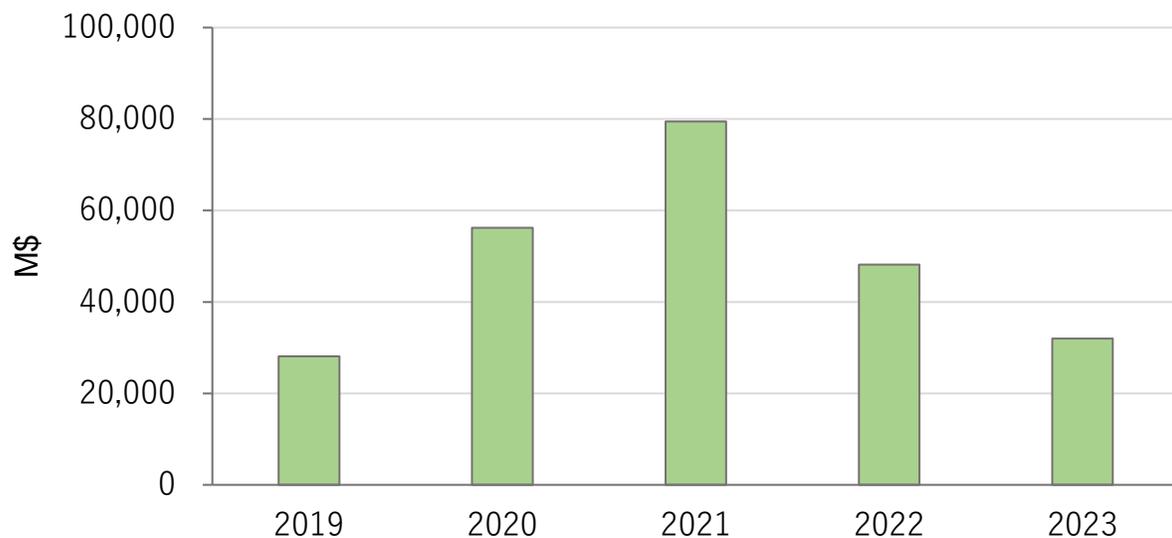
- ・コロナ禍減少していた海外顧客の当社訪問が増加している。



海外市場動向による影響

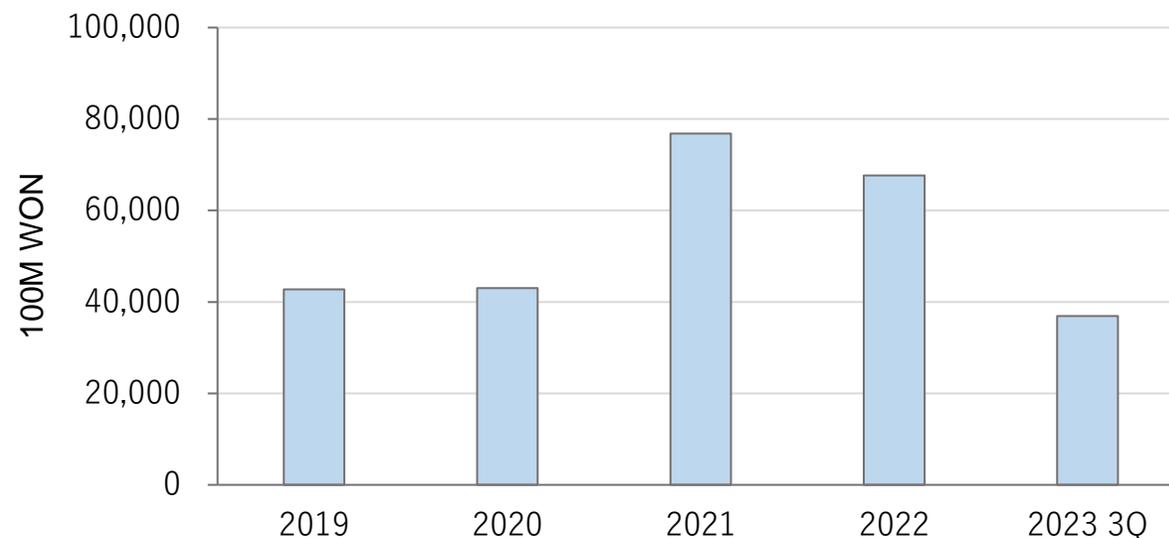
- ・ 欧米・韓国市場におけるベンチャーキャピタル投資の低調が継続している。
特に韓国バイオベンチャーを中心として当社への新規プロジェクトの受注は前期比減少した。

世界のバイオスタートアップ資金調達総額



Reference : 日経バイオテック記事を改変(2023年)

韓国バイオ市場における
ベンチャーキャピタル新規投資額

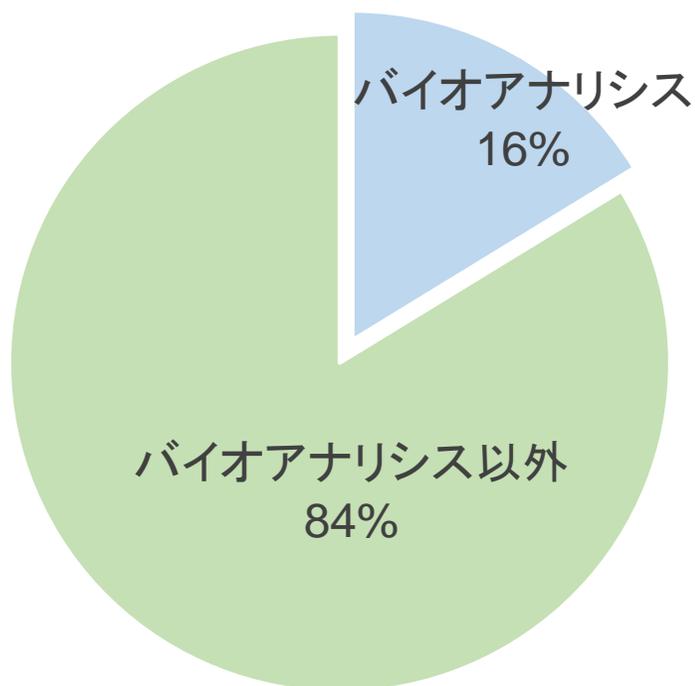


Reference : BioINPro Vol 127. 2023

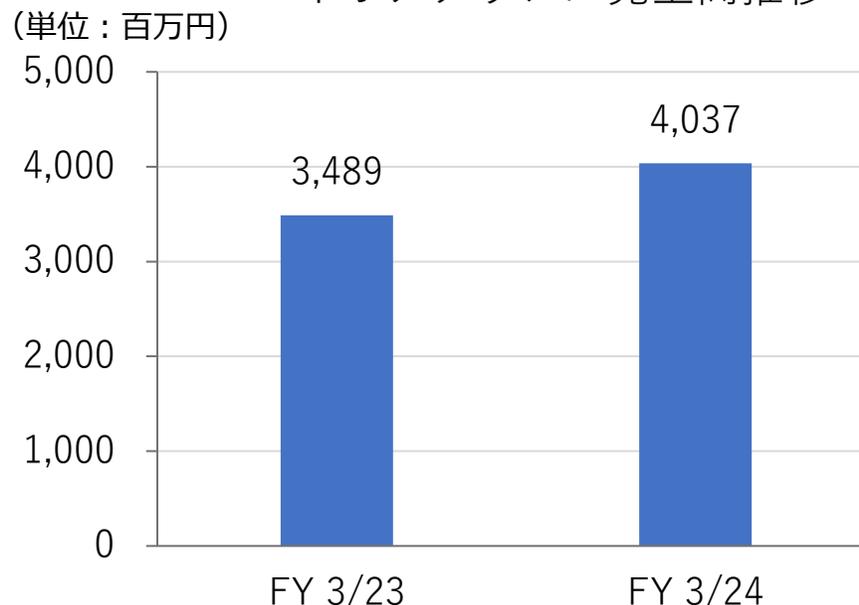
バイオアナリシス受託の増加

- ・ 非臨床試験及び臨床試験の血中薬物濃度や血中バイオマーカー分析を行うバイオアナリシスの受託が増加している。更なる顧客の要望の応えるために、バイオアナリシス実験室を拡張予定。

FY 3/24売上に占める
バイオアナリシスの割合



バイオアナリシス売上高推移

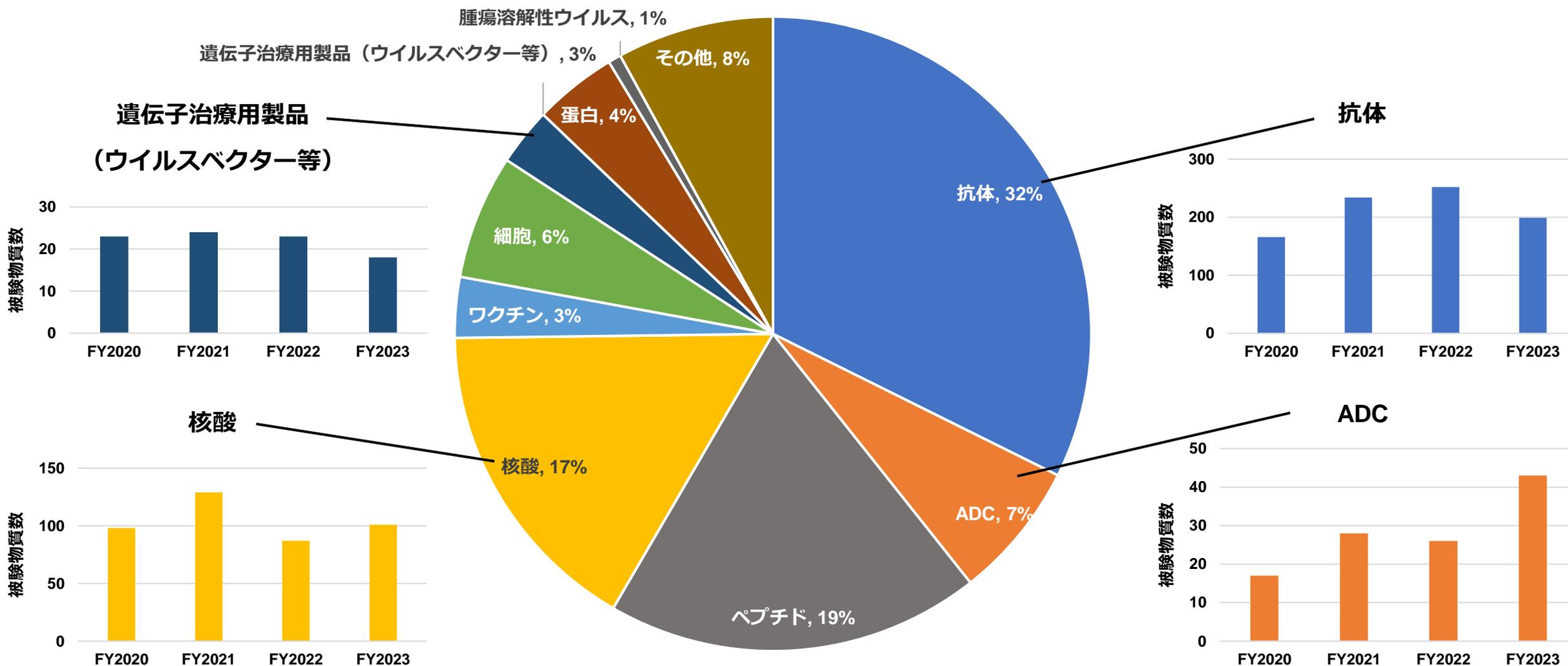


新研究棟イメージ図



2024年5月末竣工予定

CRO事業：創薬モダリティ別受注状況

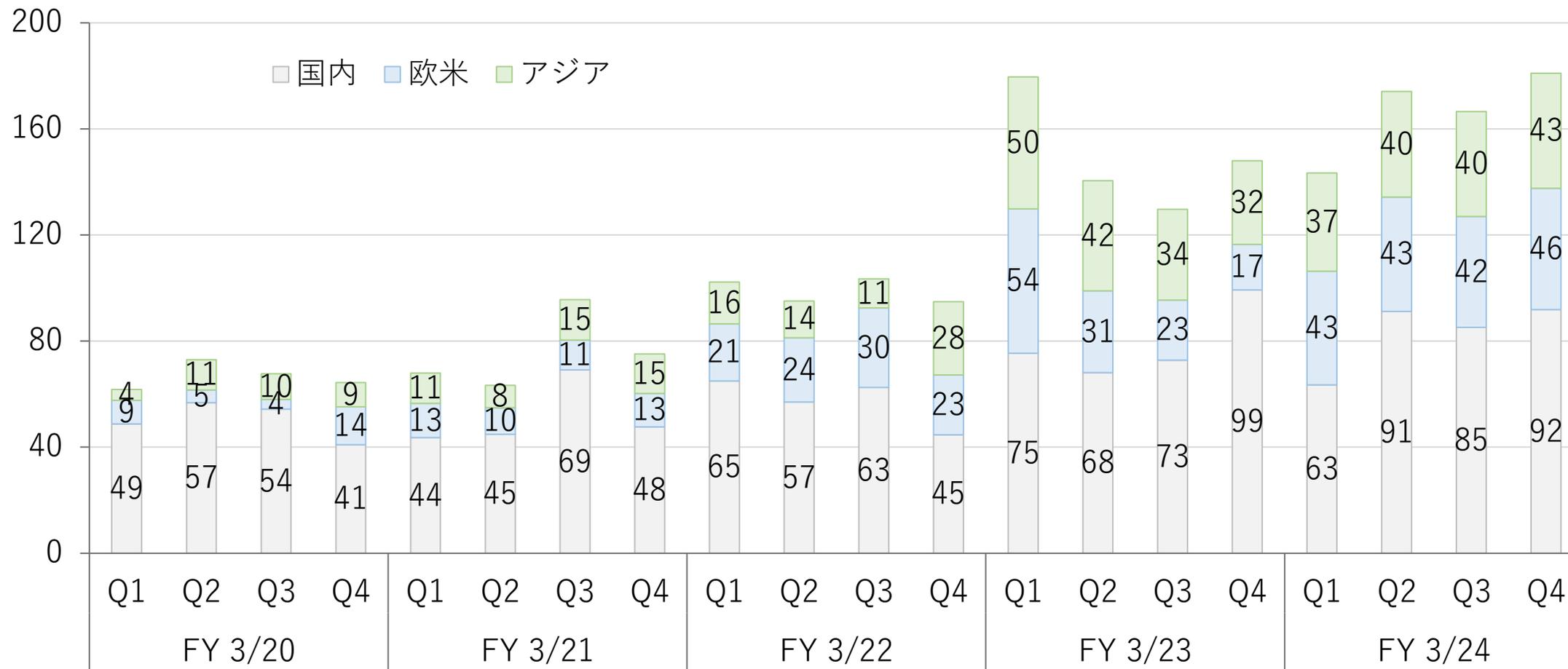


2024年3月期の低分子医薬品以外の受託実績 (被験物質数) 615化合物

CRO事業：見積提出金額の推移

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

(単位：億円)



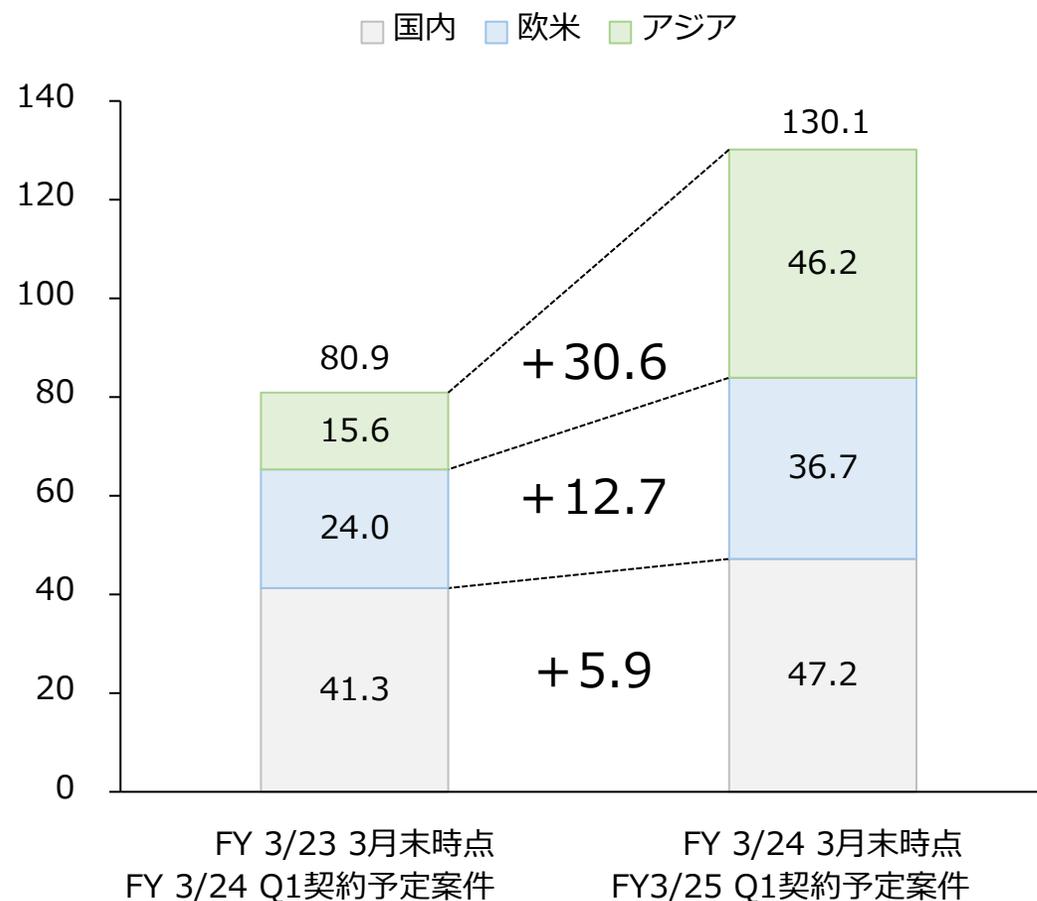
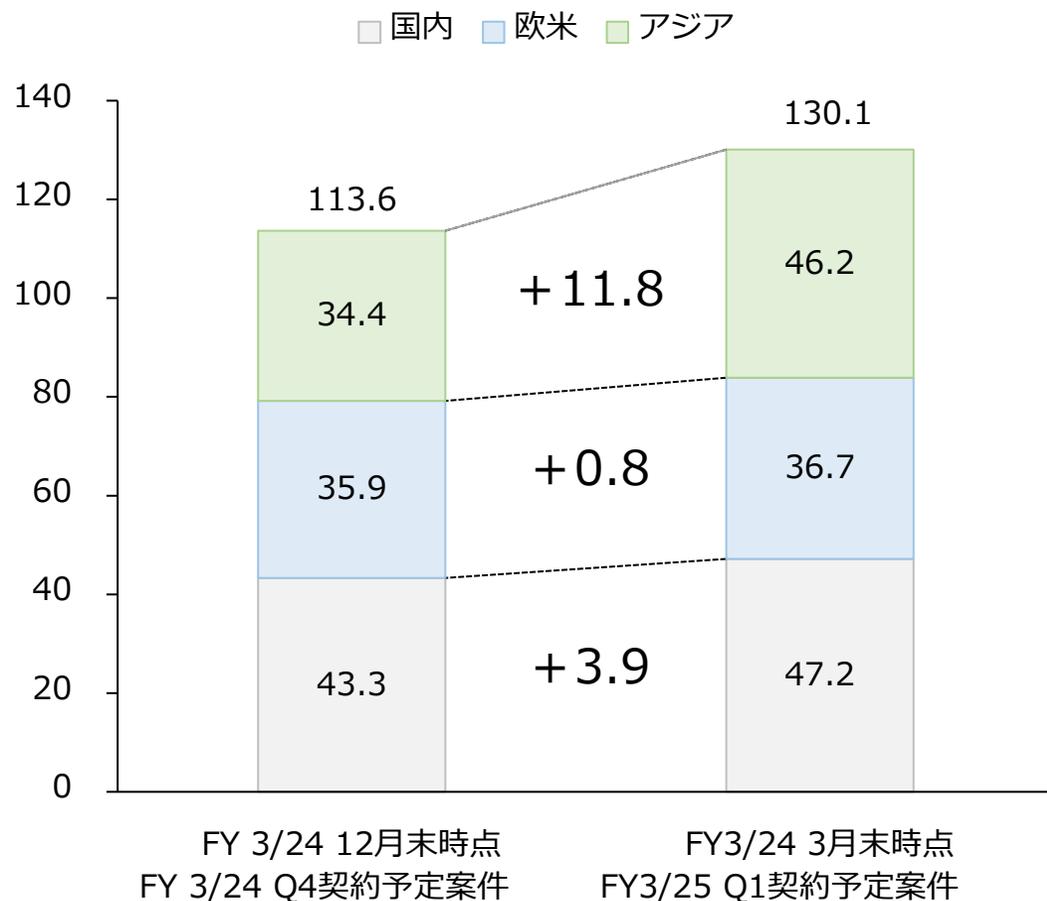
見積提出日基準の初回見積提出金額の推移は年々増加

CRO事業：2024年3月期 問合せ状況



(単位：億円)

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定



3月末時点のFY 3/25 第1四半期契約予定案件の問合せ状況は増加

Vision 新薬を1日でも早く患者様にお届けするための非臨床研究開発エコシステムの創造

1. 実験用NHPの国内繁殖・供給体制

2024年3月期には新規の繁殖・育成施設が完成し、稼働を開始した。2025年3月期も順次拡張する。

2. 研究施設の拡張

2024年5月に新研究棟竣工予定。

3. 研究スタッフの増加

2024年4月に96名の新卒を採用した。中途採用も積極的に実施している。

4. 新たな受託サービス開始

「再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業 (AMED)」へ参画しMicrophysiological System (MPS) の社会実装へ向け活動している。2025年3月期には新たな受託サービスとする予定。

5. DXの推進

2024年3月期からDXプロジェクトを推進している。業務プロセスの自動化、ロボット化を推進し、リードタイム短縮へ向け取り組んでいる。

3. 事業トピックス

②CRO事業（臨床）



取締役副社長

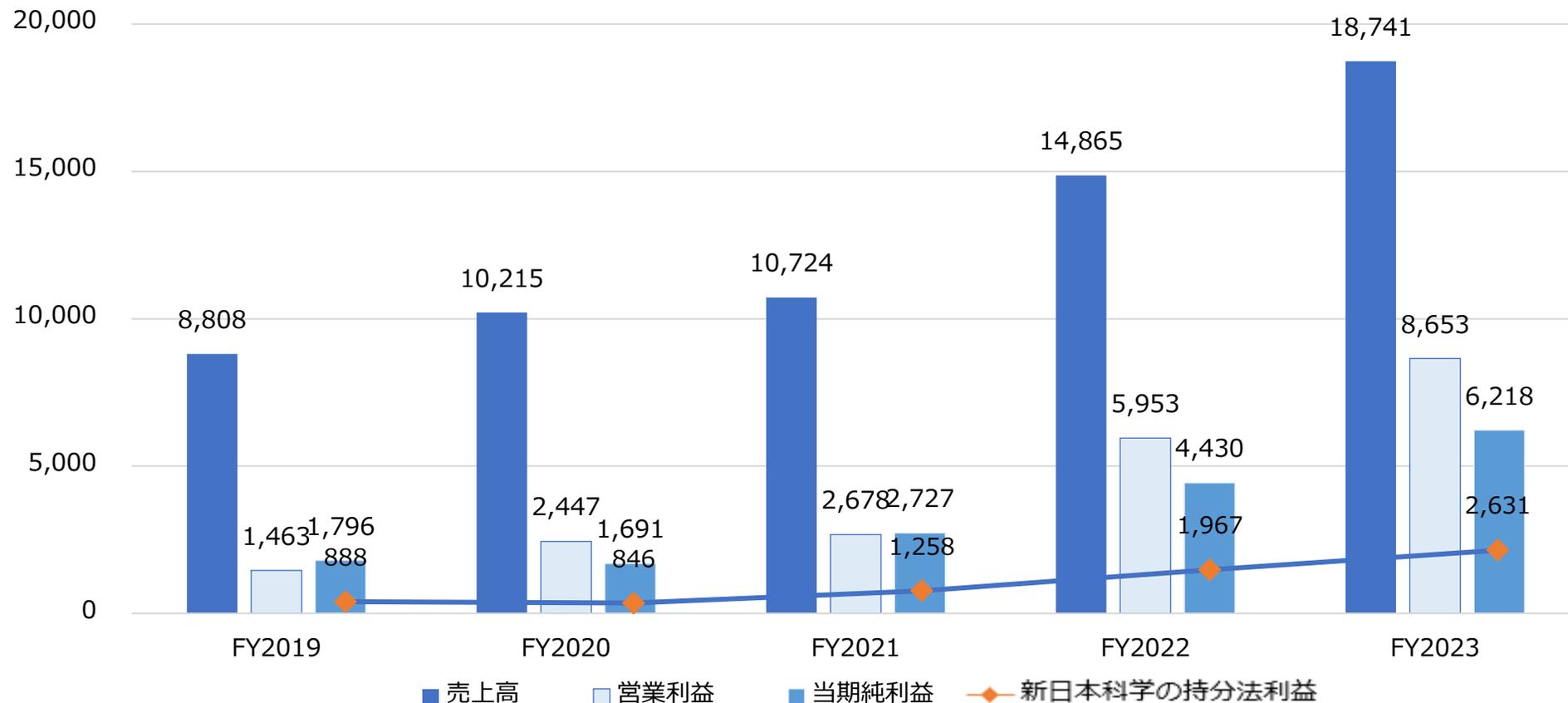
CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌

新日本科学PPD 代表取締役社長

永田 一郎

新日本科学PPDの業績と当社が受け取る持分法による投資利益

(単位：百万円)



**売上高
4年CAGR
20.8%**

**持分法利益
4年CAGR
31.2%**

期末従業員数

717人	732人	760人	835人	945人
------	------	------	------	------

**2024年4月末
1,000人超**

3. 事業トピックス

③TR事業



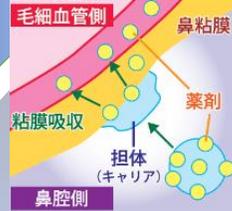
代表取締役副社長
グループ財務管掌・
グローバルビジネス管掌
高梨 健



偏頭痛の急性期治療を目的とする



経鼻吸収剤



経鼻担体技術

- ✓ 粘膜付着性の粉末製剤
- ✓ API特性に応じた複数のオプション製剤技術

経鼻投与プラットフォーム技術

経鼻デバイス技術

- ✓ 簡便操作
- ✓ 軽量コンパクト
- ✓ 高い噴射性能
- ✓ 目的部位に応じたデバイスの最適化



経鼻ワクチン

経鼻粘膜ワクチン研究開発センター

複数の呼吸器系ウイルスに対し上気道に遮断免疫能を付与する粉体型経鼻ワクチンの開発

研究助成金



パーキンソン病患者のオフ症状の改善を目的とする

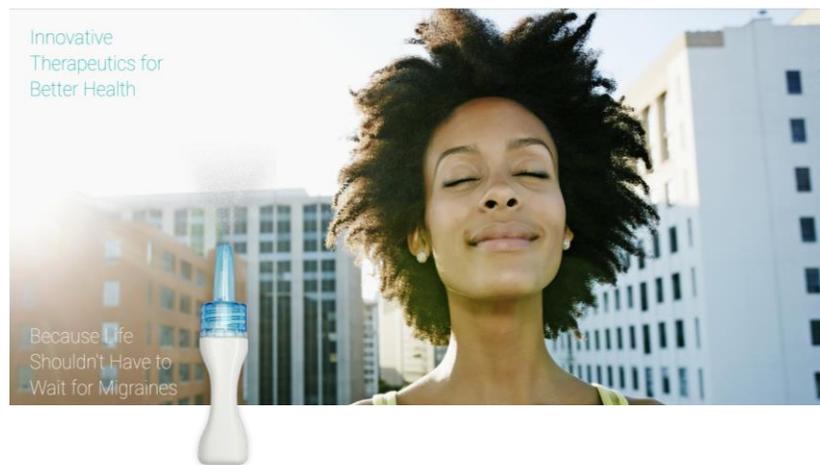


2023年11月 米国頭痛学会シンポジウム(2023 Scottsdale AHS Symposium)において、9名のキーオピニオンリーダーと面談し、偏頭痛治療におけるSTS101に対する強い期待を再確認

STS101: 偏頭痛の急性期治療において、広範な使用可能性を有する最初で唯一のDHE製品



経鼻偏頭痛薬(STS101)の開発に
特化したスペシャリティファーマ



効果実績のある薬物(PROVEN)

- ✓ DHEは、75年以上にわたって、よく効く偏頭痛薬として医師から認知
- ✓ DHEは、他の治療薬とは異なり、独特の多様な作用メカニズムを介して効果を発揮

忍容性に優れ、安全な製品 (WELL TOLERABILITY & SAFE)

- ✓ 非経口性の急性期偏頭痛治療薬の中で、有害事象の割合が最も低い
- ✓ 臨床試験における最も一般的な有害事象は、鼻の不快感(8.3%)と味覚障害(3.7%)
- ✓ 報告された有害事象は、殆どが軽微で一時的

変革技術(TRANSFORMATIVE)

- ✓ 使い勝手と携帯性に優れた、独自のDHE経鼻粉末剤と投与デバイス
- ✓ 先端的なSMART基盤技術によって、速やかで持続的な薬物吸収を提供
- ✓ 信頼と実績を有するDHE注射剤使用時の有効性を、経鼻粉末剤で実現

2024年1月17日(米国時間)

経鼻偏頭痛薬STS101の新薬承認申請について、米国FDAから審査完了報告通知(CRL)を受領

- 臨床試験結果に関連した懸念は表明されず、追加の臨床試験も求められなかった。
- 主として、製剤関連(CMC: Chemistry, Manufacturing and Control)及び非臨床試験に関する指摘事項があった。

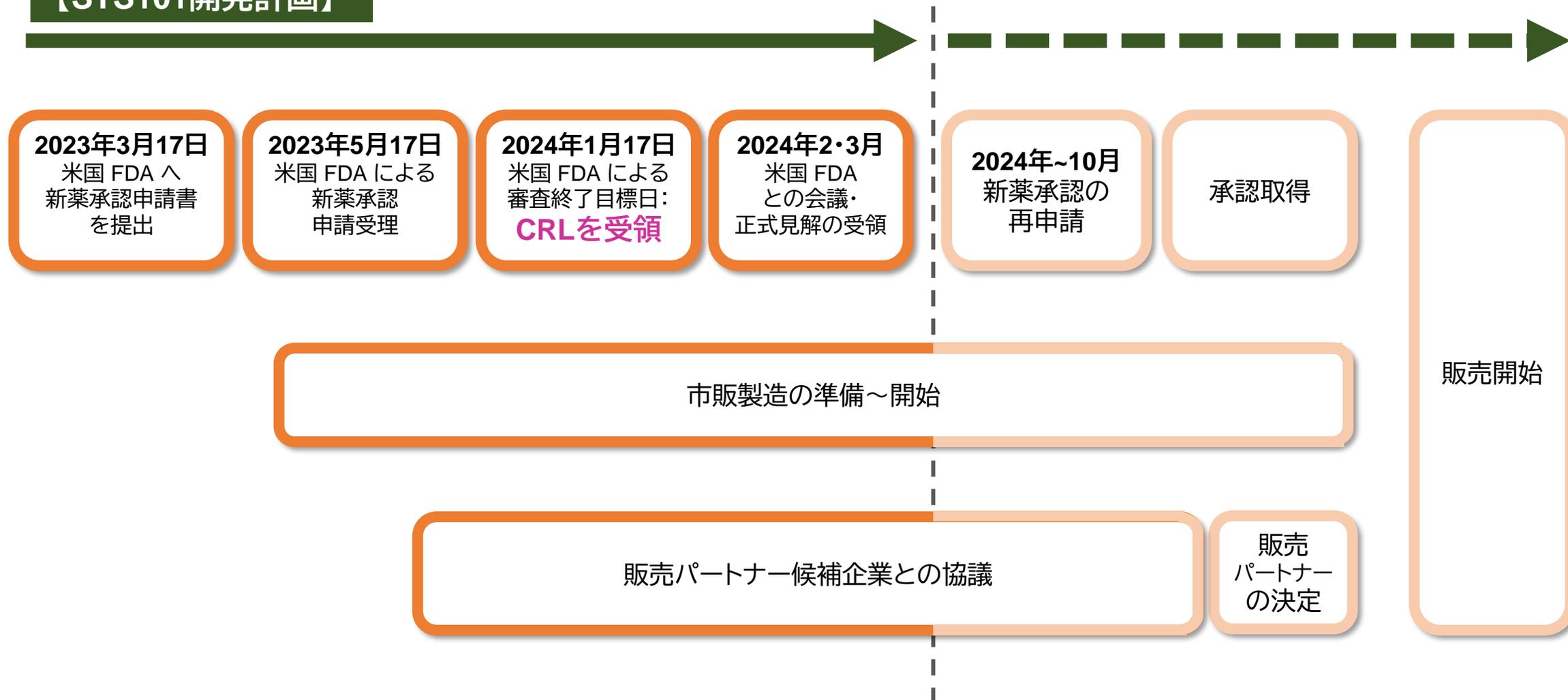
2024年2月29日 FDA会議実施／2024年3月20日 FDA正式見解受領(米国時間)

- 再申請の主要件としては、CMCに関する申請用製剤情報に関する対応に絞られた。
- 主たる対応としては、申請用製剤情報に加えて、本年2月に製造した製剤について、その安定性情報までを組み入れることである。

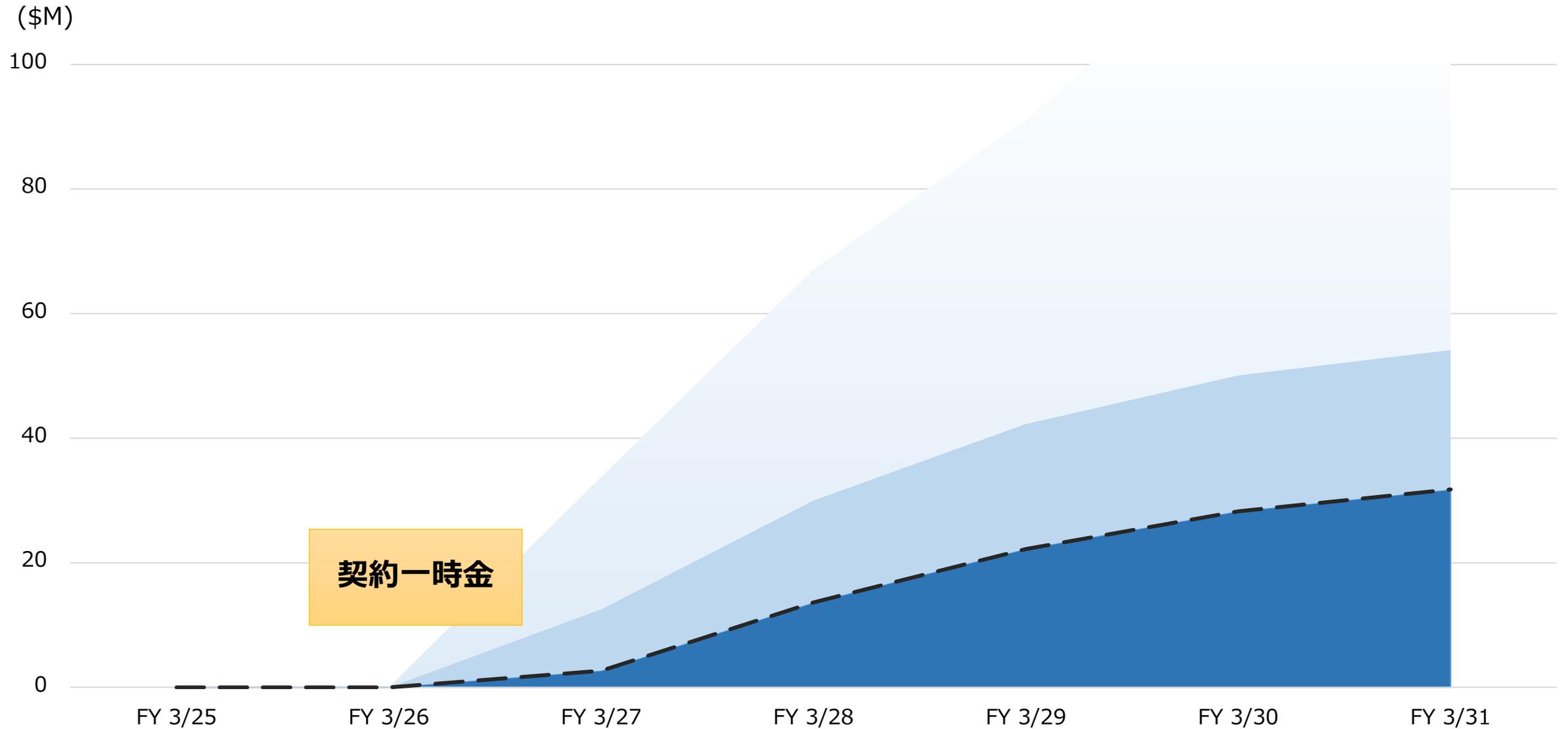
必要な製剤情報を収集完了した上で、本年10月までに米国FDAへSTS101の新薬承認の再申請を行う計画

TR事業：今後のSTS101開発計画

【STS101開発計画】



TR事業：STS101の想定されるライセンス収入モデル



TR事業：SNLD社によるパーキンソン病薬の開発状況



【パーキンソン病の主な運動症状】



手足が震える



転びやすくなる



動きが鈍くなる



筋肉や関節が固くなる

当社連結子会社SNLD社は、パーキンソン病のオフ症状に対して、自分で投与でき、速やかな症状改善が期待できる経鼻オンデマンド治療薬の国内開発を推進中

TR-012001
(リード開発品)

Phase 1 試験
(健常人安全性/PK) 試験

安全性、忍容性に大きな問題はなく、
速やかな血中濃度上昇を確認

Phase 2 試験

本邦で2024年1月に投薬開始/終了
“リード開発品”を用いたPD患者対象のPOC試験

TRN501
(改良開発品)

Phase 1
(健常人安全性/PK) 試験

本邦で2024年6月に投薬開始予定

さらなる経鼻吸収の改善を目指す、TR-012001の改良
開発品・TRN501を用いた日本人健康成人対象のP1試験

日本医療研究開発機構（AMED）

先進的研究開発戦略センター（SCARDA）

Mission

安全で効果的な日本初のワクチン創出に貢献します

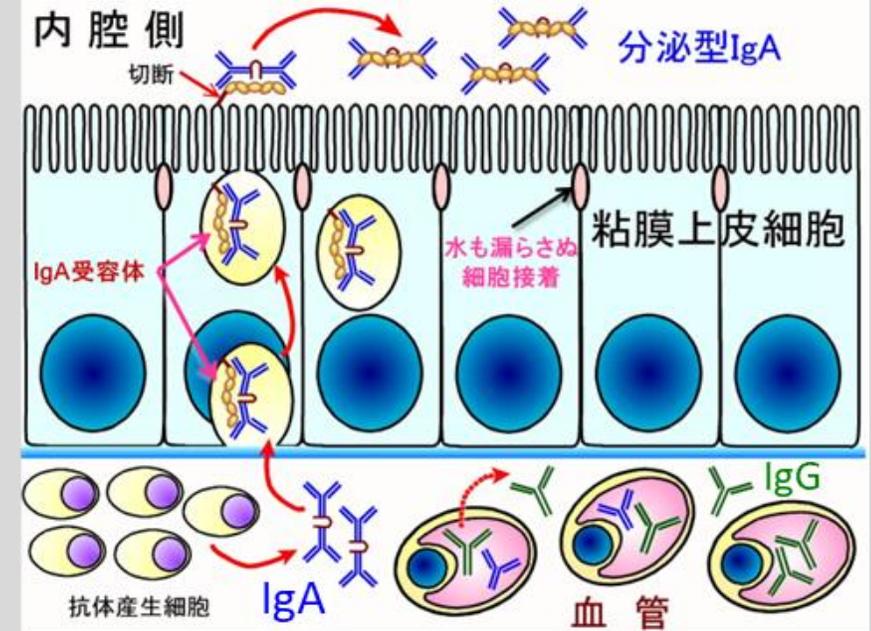
Vision

- 次の「いざ」に備えて、柔軟に対応できる研究開発体制を支えます
- 産学官の英知を結集し、世界に誇るワクチン研究開発基盤を強化していきます

令和5年度「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業（一般公募）」
（応募36件中採択5件、採択率13.9%、民間企業では当社のみ）

当社の
「粉体噴射型 IgA 産生誘導経鼻ワクチンシステムの開発」が採択

非臨床POC取得までで1億円の予算を獲得



出典：株式会社新日本科学

そもそも感染をおこさせないこと（遮断免疫）を
狙った粉体型経鼻ワクチンの
実際の臨床使用を目指す

3. 事業トピックス

④ メディポリス事業



取締役副社長

CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌

新日本科学PPD 代表取締役社長

永田 一郎

■ホスピタリティ事業

- ・人々のWellbeing（ウェルビーイング）、つまり全人的な健康の実現をメインコンセプトとした宿泊業を展開
- ・顧客へのおもてなしマインドを強化し、CRO事業の営業にも貢献

画像:ヒーリングリゾート「別邸 天降る丘」

■水産事業

- ・生物多様性の保全への取組み、および地域貢献（鹿児島県はニホンウナギの供給国内第1位）のために、シラスウナギ（ニホンウナギの稚魚）の人工生産研究を進めている。2024年3月期は、生産規模拡大に向けた取組みを推進

画像:人工シラスウナギ

■ 発電事業

- ・ 2015年2月から定格1,580kWのバイナリー型地熱発電所を稼働
- ・ 2024年3月期は、Q4より発電機の開放点検ならびに修繕を実施しており、これに伴う稼働停止の影響で売電電力量および設備稼働率が低下
- ・ 2025年3月期は、ホテルの浴用に用いている温泉泉源を活用した温泉発電所がQ4よりFIT売電開始予定

【直近5か年の売電実績】

	FY3/20	FY3/21	FY3/22	FY3/23 * 2	FY3/24
売電電力量 (kWh)	10,334,299	10,328,981	10,751,257	9,579,533	6,765,837
設備利用率 (%) * 1	74.7	74.6	77.7	69.2	48.9

* 1 発電設備の実際の年間送電量が、仮に100%の出力で稼働し続けた場合の送電量と比較して何%を占めるかを示す指標。この数値が高いほど、発電設備を有効利用できている。尚、一般的に太陽光13%、風力20%、地熱56%と言われている（電力広域的運営推進機関「2021年度供給計画のとりまとめ」より）

* 2 2023年3月期は、タービン開放点検等を含む法定点検実施のため、例年に比べて稼働停止時間が長く売電電力量および設備利用率が低下

4. Q&A



業績データ一覧

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予想)
売上高	15,658	14,561	15,110	17,748	25,090	26,450	29,835
前年比	-5.7%	-7.0%	3.8%	17.5%	41.4%	5.4%	12.8%
売上総利益	6,177	7,615	7,554	9,687	13,046	14,282	16,308
売上総利益率	39.5%	52.3%	50.0%	54.6%	52.0%	54.0%	54.7%
営業利益	829	2,228	2,529	4,195	5,245	4,162	2,350
前年比	-	168.5%	13.5%	65.9%	25.0%	-20.6%	-43.5%
持分法による投資利益	361	888	846	1,439	2,489	2,751	2,981
経常利益	1,613	3,121	3,645	7,078	9,194	7,015	5,345
税前当期純利益	1,650	3,062	4,175	8,183	7,759	6,974	--
法人税等	-308	414	497	1,016	1,708	1,456	--
親会社株主に帰属する当期純利益	1,950	2,550	3,661	7,127	6,060	5,531	3,920
1株当たり当期純利益 (円)	46.84	61.25	87.95	171.20	145.56	132.86	94.15
海外売上高	4,015	2,317	2,100	3,091	6,575	8,637	--
海外売上高比率	25.6%	15.9%	13.9%	17.4%	26.2%	32.7%	--
株主資本	9,958	12,386	15,840	22,181	25,751	29,252	--
純資産額	28,477	16,381	15,838	19,723	26,359	34,160	--
総資産額	54,329	39,002	36,972	39,312	57,242	76,302	--
有利子負債	16,158	15,123	12,864	9,281	18,931	26,331	--
自己資本比率	52.3%	41.8%	42.6%	49.8%	45.8%	44.7%	--
設備投資額	1,612	1,514	1,025	1,703	5,614	8,525	10,559
減価償却費	1,361	1,229	1,187	1,177	1,544	1,774	2,751
研究開発費	339	400	392	425	683	1,741	3,121
売上高R&D比率	2.17%	2.75%	2.59%	2.39%	2.72%	6.58%	10.46%
期末従業員数 (人)	935	985	986	994	1,208	1,341	1,465
自己資本当期純利益率 (ROE)	7.1%	11.4%	22.9%	40.4%	26.5%	18.3%	--
総資産経常利益率 (ROA)	2.9%	6.7%	9.6%	18.6%	19.0%	10.5%	--
投下資本利益率 (ROIC)	-	11.7%	12.3%	18.4%	17.9%	10.3%	--
売上高営業利益率	5.3%	15.3%	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%	7.9%
売上高経常利益率	10.3%	21.4%	24.1%	39.9%	36.6%	26.5%	17.9%
1株当たり配当額 (円)	3.0	5.0	20.0	40.0	50.0	50.0	50.0
配当性向	6.4%	8.2%	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	53.3%

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2024年3月期 通期決算短信〔日本基準〕（連結）」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満は切捨てて記載しております。

<IRに関するお問い合わせ>



株式会社新日本科学
IR広報統括部

電話：03-5565-6216

E-mail：ir@snbl.com

HP：https://www.snbl.co.jp